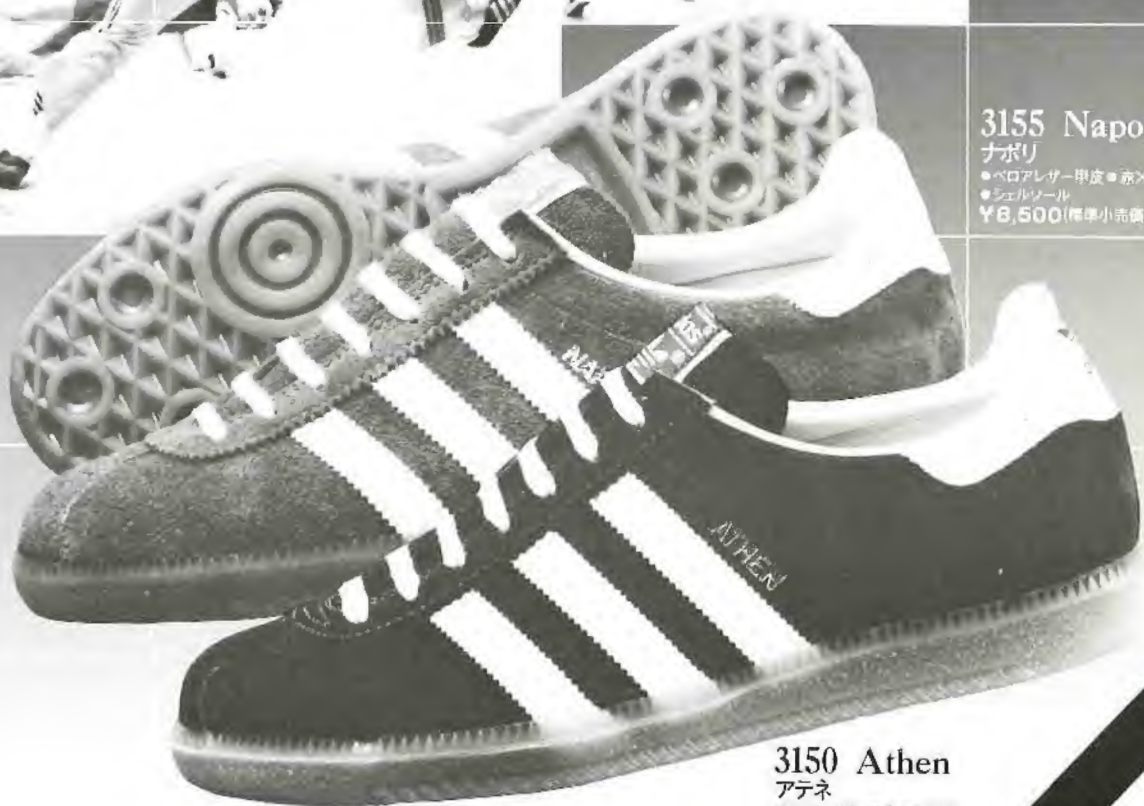
アディダスで正しいテクニックを身につけたい。





3155 Napoli
ナポリ
●ベロアレザー甲皮●赤×白
●シェルソール
¥8,500(標準小売価格)

3150 Athen
アテネ
●ベロアレザー甲皮●青×白
●シェルソール
¥8,500(標準小売価格)

デンマーク・ワールドチャンピオンシップでも、優勝ドイツチームを始め、世界16ヶ国の代表選手の78%もがアディダスハンドボールシューズでした。そのヒミツは、誰にも負けない経験と実績、そして技術開発力を背景に、世界のトップ選手のアドバイスを商品開発にダイレクトに生かしているからに他なりません。ストップ、ターン、グリップに理想的なアディダス独自のソール設計。足への文句のないサポート感。加えて、足を良く守るヒールカウンター、パッド…。大切なゲームであなたに必要なのはこのアディダス機能です。

adidas® ®
The science of sport.

The all-sports people

●お求めはadidas特約店で

発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2—5—3 ☎06・305—1431
〒130 東京都墨田区緑2—12—3 ☎03・634—1411

JOC、「モスクワ不参加」決める

JOC（日本オリンピック委）は、5月24日、東京渋谷の岸記念体育会館で臨時総会を開き、「現在の国際情勢は、日本選手団をモスクワ・オリンピックに参加させるには不適当と考える」という柴田勝治JOC委員長（ボクシング）の示した見解を、挙手による表決の結果、賛成（モスクワ・オリンピック不参加）29、反対13で可決した。

この決定により、昨冬12月、アジア地域予選を勝ち抜き、モスクワへの出場権を手中にしていた男子ハンドボールチームのオリンピック参加は、断念せざるを得なくなり、全国ハンドボール関係者、愛好者が期待を寄せていた「オリンピック3回連続出場」は、夢に終った。

JOC常任委員として、連日、激論の輪の中に入り、「あくまで参加」の意向を強調していた日本協会・荒川清美理事長は、議論を煮つめつくした大詰めの採決では「モスクワ・オリンピック不参加」に一票を投じた。

なお、日本協会は、5月17日名古屋で「モスクワ・オリンピック代表チーム」役員2、選手14名（フルエントリー）を決定、発表ずみだった。

4月22日のJOC総会で決着が延ばされ、最終線ぎりぎりとみられた5月21日のJOC総会でも、態度を決めかね、ついに、国別エントリー最終日の5月24日の午後まで、議論が引き延ばされた今回の問題は、それだけ、スポーツ関係者の苦悩の色の濃さを、浮き立たせるものであった。

特に、日本ハンドボール協会は各ボールゲームが、ばたばたとアジア予選などで倒れる中で、男子チームは、みごとにアジア代表権を握り、前回優勝の特権をもつ女子バレーボールチームとともに、さっそうと、モスクワの檜舞台へ登場することが約束されていただけに、「参加」への熱意は、すさまじいとさえ表現できるものであった。

本誌前号でも一部が伝えられたとおり、JOCメンバーの荒川清美理事長はあらゆる会議、あらゆる機会に「今回参加を決めている唯一の男子ボールゲーム」の自負を背景に、「アジア代表権獲得ずみ」を強調、日本選手団としてのモスクワ参加を要望した。

しかし、今春以降、アジア予選を戦ったアジアの国々が、次々と「不参加」を表明するなど、日本協会は、単に、自協会の利益のみを主張することが苦しくなった。

このため、4月19日の常務理事会では「参加を前提、ただし、最終的にはJOCの意向尊重」（既報）の態度を打ち出し、5月11日の全国理事会でも了解を求めた（本誌3頁参照）

全国理事会では「あくまで強行突破」の意見も出たが、最終的には、世論を踏まえた日本協会独自の動向と、JOCの意向を尊重するという二点が、「参加」ムードを、次第に支配するようになり、極めてクールな姿勢でまとまった

だが、荒川理事長は粘った。ことに、5月22日、突然のように表面化した「3位以内入賞有望種目にしぼって自費参加を検討する」というJOCの意向には、エキサイトとした議論を投げかけ、「アジア代表権」の権利を主張した。

土たん場の24日、まず、日本体協が午前中の会議で「不参加」を決議、午後のJOC総会を迎えたが、2時間を越す白熱した論議の末、表決にもちこまれ、日本スポーツ史上、日本ハンドボール史上忘れることのできない「不参加」の決定が下った。

モスクワ・オリンピック代表選手（5月17日発表）

▽監督
竹野　孝昭
▽コーチ
東　嘉伸
▽GK
福井　秀人（湧　永）
大畑　孝広（本田技）
井藤　英忠（日体大）
▽FP
津川　昭（湧　永）
穂積　豊彦（湧　永）
山本　仲二（湧　永）
池之上孝司（湧　永）
志賀　良弘（湧　永）
大原　真造（大　同）
蒲生　晴明（大　同）
大本　満明（大　同）
斉藤将一郎（湯沢ク）
斉藤　孝司（大　崎）
関　健三（三　陽）

・選手の略歴は本誌5頁

「個別参加」は望まず

日本協会・荒川清美理事長は、5月24日のJOC総会終了後、日本協会室で、共同通信、日刊スポーツ、NHK記者の質問に対し「JOC委員長は、今後、個別参加の道が残されているとしているが日本ハンドボール協会は、IHF（国際ハンドボール連盟）に対し特別措置を講じてくれるような働きかけは、しないつもりだ」という注目すべき発言を行った。

これは、男子チームのモスクワ参加を、この時点で事実上断念するものである。

JOCに望みを託したが…

竹野孝昭・オリンピック代表チーム監督は、5月26日次のように語った。

「残念の一言だ。国内外の情勢が厳しく不安はあったが、JOCがなんとか道を切り拓（ひら）いてくれると思っていた。しかし、まだ完全にダメとは考えたくない。6月の強化合宿も予定通りだ」

女子の繰り上げは辞退ずみ

日本協会強化部は、5月17日名古屋市体育館で強化委員会を開き4月30日付でIHFから通知のあった「女子チームの補欠取り扱い」について協議、韓国、コンゴ、アメリカの順に不参加となり、日本女子へ出場権が廻って来た場合も出場しないことを決めた。

＜注＞女子の「3大陸代表」は韓国が不参加となり、コンゴの出場となった。

日本の代役、クウェートか

日本協会・荒川清美事理長は、5月26日、「日本の男子不参加をIHFへ正式通告した。日本の代替国はクウェートになろう」と語った。

西ドイツなども不参加

モスクワ・オリンピックの国別エントリーは、予定どおり5月24日〆切られたが、各報道機関による参加、不参加国リストによるとハンドボール関係では、男子は世界チャンピオン・西ドイツのほかチュニジア、日本、女子は韓国が不参加又は未回答となっている。

大きかった「アジア諸国との連帯」

JOC（日本オリンピック委員会）は、5月24日ついにモスクワ・オリンピックへ日本選手団の派遣をあきらめた。

4年に一度の青春の祭典、苦しいアジア予選を勝ち抜いた男子ハンドボールチームの無念さははかり知れない。

なぜ、こうなったのか。JOC総会を終えたばかりの日本協会・荒川清美理事長（JOC常任委員、日本体協理事）に聞いてみた。

文責・編集委員会

オリンピック問題　荒川理事長に聞く

——今回の結果をどろみるか

荒川理事長　JOC（日本オリンピック委員会）としては、最終的には、このようになるほかなかった。

議論をつくし、国内外の情勢をあらゆる角度から検討、研究しつくしての結果だ。残念この上ない

——もちろん、周囲の状況を考りょすることは必要だが、JOC独立の姿勢という点では、問題はありはしないか。

荒川理事長　JOCは、最後の最後まで「行く」方針だったのだし、理想的には、他の影響をなんら受けないことだろうが、やはり現状下のスポーツ界は、そうもいかないことがある。

——JOCなどが受けた〝外の要素〟のなかで、いちばん大きかったのは何か。

荒川理事長　JOC委員一人々々の受けとりかたが違うと思うが私は、やはり「アジアの国」が次々と、不参加を決めていったことだ。

中国も、韓国も、ハンドボールチームが予選で顔を合わせた相手であり、それらの国が出場しないことを決めている時、日本だけがというのは、考えなければいけないと思った。

——「不参加」問題の火の手が強まった頃、ホンコンでAHF（アジアハンドボール連盟）の第3回総会が開かれたが、その時、この問題は出たのか。

荒川理事長　まったくといってよいほど話し合われなかった。陪席していたIHF（国際ハンドボール連盟）のリンケンバーガー事務総長が、プライベートの席で、「西ドイツの出場は難しそうだ。日本は是非出てくれよ」と云っていたのが、唯一の話だった。

——アジアとの連帯は、ハンドボール以外の競技団体でも、かなり大きなウェートを占めていたようだが、国内的には、何も問題はなかったのか。

荒川理事長　政治の介入はさけなければいけないが、政府の意向というものを、まったく無視することはできない。

——具体的に、政府の意向というものが、日本協会なり、荒川個人なりに示されたか。

荒川理事長　それはない。

——2月に政府が不参加の〝意向〟を示し、4月に〝勧告〟を行ったが、影響はなかったか。

荒川理事長　4月25日の政府勧告は、たしかに来るものが来たという感じはあったが、その時点では、エントリー〆切りまでに一カ月近くあるし、〝好転〟を信じていた。私個人はむしろ、5月なかばに政府がアタッシュの活動を休止させたと聞いた時、これは深刻だと考えを改めさせられた。

——日本協会は、4月19日の常務理事会で、代表選手が全員揃って行けなければ、チームの派遣をとりやめると発表（本誌前号既報）したが、あの真意は

荒川理事長　「地方公務員」に限って発言したようにマスコミには受けとられたが、私は、公務員企業所属の選手、学生に限らず一人が欠けたなら行かないといったつもりだった。

それも、あの時点で取り沙汰されていた「個別エントリー」の場合のみで、あくまで日本協会は、「JOC選手団」の派遣を期待していた。

——選手の所属母体から、そうした動きがあったのか

荒川理事長　ない。日本協会独自の見解だ。個人スポーツとちがって、チームスポーツというのは不可抗力での欠員ならともかく、他の理由で、ましてや今回のような事態で、これまで一緒に苦労を重ねて来たチームメートを置いて行ける者だけが行くというのではなんのためにボールゲームに親しんでいるのか分からないではないか。

——モスクワのハンドボール競技には、いわゆる西側の国が、日本を含めて男女六カ国の出場が決まっていたが、これらの国の間で話し合われたことは

荒川理事長　各国協会ともNOC（各国内オリンピック委員会）の傘下にあるわけだから、ハンドボール間の連絡はなかった。

DHB（西ドイツ連盟）のティーレ会長が、強硬なボイコット反対論者として〝健闘〟していることは人づてに聞いた。

——IHF（国際ハンドボール連盟）とは接触があったか

荒川理事長　スイスの本部とも渡辺和美理事とも接触はしなかった。

ただ、IHFから4月末に「NOCとの関係でナショナルエントリーが出来ない場合、24日以降にIHFが招待したなら参加できるか」という問合せがあった。

また、日本には直接関係はなかったが、すでにジュリーやレフェリーに指名されている者は、NOCの参加、不参加に拘らず必ずモスクワ大会で決められた義務を果たして欲しい旨の文書も届けられていた。

——IHF招待うんぬんの件は

荒川理事長　この問合せへの返答期限が5月20日になっていたので、「日本はなんとも返事のしょうがない」と伝えておいた。

——5月14日付の各紙にAFP時事電として「IHFは、韓国協会にボイコットの場合、資格停止などペナルティを課す」といったニュースが掲載された。日本協会には、こうした警告は来ていないといわれるが

荒川理事長　その通りだ。日本

日本協会全国理事会　「JOC決定」最優先決める

日本協会は5月11日の全国理事会（東京）で、流動するモスクワ・オリンピック問題を討議した。

オリンピックに日本の選手が参加するかどうかを決定するのはJOC（日本オリンピック委）だがJOCに対し競技団体としての意見を述べ、また競技団体の代表として荒川日本協会理事長を委員として送って関係上、日本協会としての意見をまとめるために今回の理事会をもったものである。

JOCはECのヨーロッパ各国、アジア諸国の国内オリンピック委員会（NOC）の動きや国内世論の動静を静観してきたが、国別エントリー締切期限は刻々と迫り、強化に励む選手のことを考えればいつまでもずるずるとJOCの決定を引き延ばすこともできない状態になっていた。

このような情勢を踏まえて種々の議論が出されたか、結論は、日本協会としては参加を希望するが、JOCの大勢が不参加の方向に傾いたときはそれに従う、ということになった。

競技団体の立場からは、是非とも選手をオリンピックに参加させたい、但し国内世論の大勢に逆らってまで参加することはできない、ということであるが、これには、JOCが競技団体の立場からのみでなく、かと言って政府の圧力に屈してでなく、国内、国外の世論を見極めて、自主的に決断して欲しいという期待がこめられている。

JOCが、もし参加しないと決定した場合に、日本ハンドボール協会はどうするか。その場合でも自主的に参加すべきであるという意見も出たが、JOCが個別参加を黙認するというような状態でない限り自主参加もすべきでないという意見が大勢を占めた。個別参加の道が開かれた場合はあらためて協議することにしてJOCの決定を待つことになった。（大野金一）

緊急常務理事会も　日本協会は、5月22日、JOC常任委が「自費参加による小数参加」を打ち出したことから、23日夜、緊急常務理事会を開き「自費参加」を了解また「少数参加」についてはあくまでアジア代表権を獲得したことを強調する線でまとまったが、最終的には、JOCの決定尊重を確認した。

には、まったくそうした通告は来ていない。

韓国女子は「3大陸代表」だから、日本は単に「アジア大陸代表」だからというものではなかろう。いずれ、韓国協会役員に問い合せてみたい。

――仮に日本にそのような警告が伝えられたらどうしたか

荒川理事長　IHFに掛け合うほかはないし、ペナルティも仕方がないだろう。

――ところで、JOCは5月22日の常任委員会で「3位以内入賞有望競技に縮少して自費参加」という線を打ち出したが

荒川理事長　それはちょっと受けとりかたがちがう。

23日の常務理事会でも説明したが、JOC常任委は縮少して参加すると申し合せたのではないのだ。あの申し合せの主眼は政府補助ゼロが予想され、「自費参加になるかもしれぬ」という点にあった。それだから、私は、23日の個別折しょうを前に竹野監督と手分けして代表選手の所属チームに「自費参加」の場合の協力可否を問い合せたほどだ。

――「3位以内」というのはなかった話なのか

荒川理事長　それはあった。23日のJOCと各競技団体との個別折しょうでは、この点の質疑も行われた。だが、それも「3位以内」なら行ける、「自費参加」なら行けるといったことではないのだ。

――「3位以内」に規定された場合、ハンドボールの派遣は難しかったと思うが

荒川理事長　すべてに結論の出た今となっては、もう、その時の話をしても仕方ないが、私は、男子ハンドボールの場合、「3位以内」というより、アジア予選を勝ち抜いて出場権利を持っているということを評価してくれと強調した。新聞記者のかたたちから、「アジア予選を勝ち抜いたから、3位以内がムリでも参加させろということか」と聞かれたが「そうだ」と答えた。男子チームは、JOCが強いチームと判断して行かせてくれるのではなく、IHFの決めた権利を握って、それをJOCが認めてくれる、という立ち場だったのだ。

――今回の〝決定〟が、ハンドボール界にどのような影響を与えるか

荒川理事長　筆舌につくせぬ努力を重ねて代表となられた選手諸君や、たえず支援して下さった全国の関係者、愛好者には、心からお詫びしたい。

選手諸君の心の傷は深いものがあろうが、一日も早く立ちなおりさすがオリンピック選手といわれるプレーを、また我々に見せて欲しい。（5月24日・日本協会室で）

『ハンドボール』

55年6月号（第186号）目次

【表紙写真】関東学生女子春季リーグ・優勝をかけた日体(攻)×東女体戦
（5月17日・駒沢体育館）
【提供・スポーツイベント】

日本協会が5月17日名古屋で発表した「モスクワ・オリンピック代表チーム」の役員2、選手14名(フルエントリー)は次のとおり。
略歴は①年令②出身県③球歴④身長・体重⑤主な国際競技歴の順

監督　竹野　奉昭

①43才②熊本県③済々黌(熊本)—日体大—大崎電気⑤第4回、第5回、第7回世界選手権代表(公式国際試合出場28回・80得点)、ミュンヘンオリンピックJOC派遣支援コーチ、カナダプレ五輪監督、モントリオールオリンピック監督、第9回世界選手権監督、第1回、第2回アジア選手権監督、日本協会強化委員。

コーチ　東　嘉伸

①43才②大阪府③三国ケ丘高(大阪)—日体大—大阪イーグルス・大阪三国ケ丘高教員⑤第5回世界選手権代表(公式国際試合出場11回・12得点)、カナダプレ五輪コーチ、モントリオールオリンピックコーチ、第9回世界選手権コーチ、第1回、第2回アジア選手権コーチ、日本協会強化コーチ。

GK　福井　秀人

①28才②愛知県③中京高(愛知)—中京大—湧永薬品。52年6月全日本入り④180㎝、74㎏⑤第7回訪韓全日本学生代表、第9回世界選手権代表、第2回アジア選手権代表。公式国際試合出場33回(2得点)

GK　大畑　孝広

①23才②静岡県③静岡農高(静岡)—日大—本田技研鈴鹿。54年6月全日本入り④184㎝、76㎏⑤第11回訪韓全日本学生代表、モスクワオリンピックアジア予選代表。公式国際試合出場6回(得点0)。

悲運の勇者たち

日本ハンドボール界は君たちの「努力」と「勝利」を忘れない

GK　井藤　英忠

①21才②山口県③下関中央工(山口)—日体大(4年)。52年6月全日本入り④185㎝、79㎏⑤第2回アジア選手権代表。公式国際試合出場10回(得点0)。

FP　津川　昭

①28才②奈良県③生駒高(奈良)—大阪経大—湧永薬品。49年1月全日本入り④180㎝、77㎏⑥第7回訪韓全日本学生代表、第9回世界選手権代表。公式国際試合出場39回(99得点)。

FP　穂積　豊彦

①28才②兵庫県③三田学園(兵庫)—大阪経大—湧永薬品。49年1月全日本入り④180㎝、78㎏⑤カナダプレ五輪代表、モントリオールオリンピック代表、第9回世界選手権代表、第2回アジア選手権代表。公式国際試合出場52回(117得点)

FP　山本　伸二

①26才②香川県③三本松高(香川)—名城大—湧永薬品。53年11月全日本入り④178㎝、70㎏⑤第9回訪韓全日本学生代表、第6回世界学生選手権代表、第2回アジア選手権代表。公式国際試合出場16回(62得点)

FP　池之上孝司

①24才②鹿児島県③加治木工高(鹿児島)—日体大—湧永薬品。52年6月全日本入り④185㎝、75㎏⑤第9回世界選手権代表、第2回アジア選手権代表。公式国際試合出場26回(43得点)＝左腕

FP　志賀　良弘

①24才②大阪府③泉北高(大阪)—大阪体大—湧永薬品。52年6月全日本入り④187㎝、92㎏⑤第9回世界選手権代表、第2回アジア選手権代表。公式国際試合出場21回(19得点)

FP　大原　真造

①27才②奈良県③生駒高(奈良)—京都産大—大同特殊鋼。54年6月全日本入り④175㎝、70㎏⑤第6回世界学生選手権代表、モスクワオリンピックアジア予選代表。公式国際試合出場12回(43得点)

FP　蒲生　晴明

①26才②東京都③中大付高(東京)—中大—大同特殊鋼。48年6月全日本入り④192㎝、90㎏⑤第6回世界学生選手権代表、第8回、第9回訪韓全日本学生代表、第9回世界選手権代表、カナダプレ五輪代表、モントリオールオリンピック代表、第1回、第2回アジア選手権代表。公式国際試合出場75回(334得点)

FP　中本　満明

①26才②山口県③安下庄高(山口、バスケットボール選手)—大同特殊鋼。52年2月全日本入り④174㎝、82㎏⑤第1回、第2回アジア選手権代表、第9回世界選手権代表。公式国際試合出場36回(9得点)

FP　斉藤将一郎

①27才②秋田県③湯沢高(秋田野球選手)—日体大—湯沢クラブ横手工高教員。48年8月全日本入り④187㎝、90㎏⑤第6回世界学生選手権代表(GK)、第1回、第2回アジア選手権代表(第1回GK第2回FP)公式国際試合出場32回＝GK13回、FP19回(25得点)

FP　斉藤　幸司

①26才②秋田県③大曲高(秋田)—日体大—大崎電気。49年1月全日本入り④174㎝、80㎏⑤第9回訪韓全日本学生代表、第1回、第2回アジア選手権代表、第9回世界選手権代表。公式国際試合出場43回(81得点)＝左腕

FP　関　健三

①25才②茨城県③笠間高(茨城)—中大—三陽商会。54年2月全日本入り④180㎝、75㎏⑥第7回世界学生選手権代表、第2回アジア選手権代表。公式国際試合出場17回(38得点)。

★モスクワ・オリンピックの代表選手による「全日本男子」は、6月21日東京体育館で「全日本学生」(予定)と公開試合を行なう。

ＩＨＦ、強引な補欠づくり

ＩＨＦ(国際ハンドボール連盟)は、5月18日、モスクワ・オリンピックの男女補欠順位を発表した（女子は4月30日付）

これは、5月24日の国別エントリーを前に、多くの不参加が見込まれるようになったため、急ぎ決定されたもの。日本関係の補欠順位は次のとおり。

▽男子アジア大陸代表　①韓国②台湾③中国④クウェート

▽女子3大陸代表　①コンゴ②日本③カメルーン④台湾⑤アルジェリア

◇　◇　◇

○…オリンピックへの関心が薄れた時点で、補欠国の発表を解説するのは、あまり意味もないが、ＩＨＦの強引さを知るうえには、今回の発表は、極めて興味深い。

特に、男子の順位は日本協会関係者も驚きの表情をみせている。

その第一は、日本と〝決勝〟を争った中国を第三位とし、いわば第一次予選の敗者ともいうべき韓国、台湾を、その上へランクしていることだ。

渡辺和美ＩＨＦ理事をはじめＩＨＦ筋は、昨冬の日本×中国戦の勝者をアジア代表とすると明言していただけに、中国を第二位とするのが順当だ。

「中国を下へ廻したのは、昨冬、中国へ参加の道を開いたことに、ＩＨＦ自身が釈然としないものを抱いているからだろう。

しかし、それは間違いだ。少なくとも、中国を仮加盟とはいえ、ＩＨＦメンバーとして、日本と決勝を行なわせた以上、それが特別措置、緊急処理であったとはいえ中国を日本の〝次の立ち場〟におかねば、筋が通らぬ。

また、戦ってもいない中・韓・台3国の順位を、ＩＨＦがどのような基準で、韓台中と並べたかもあいまいで、独断がすぎる。

第二にクウェートを第四補欠にピックアップしていることだ。

クウェートは、いちどアジア予選に申しこんだものの、直前に棄権した国だ。

予選の棄権は、本来、自動的に本大会への権利も棄てたことになる。それをピックアップしたのだから、補欠づくりにＩＨＦがいかに苦労したかが分かろうというもの

それはそれでよいとして、渡辺ＩＨＦ理事がクウェートを「第2回アジア選手権の成績で選んだ」といっているのは、重大である。

同理事は、かねてからアジア選手権を「ＩＨＦ未公認のローカル大会」ときめつけていたからだ。

その理由は「ＩＨＦ未加盟のパレスチナが参加し、ＩＨＦ加盟のアジアのいくつかの国が招かれていない」としていた。

ＩＨＦ側がどう論理しようが勝手だが、少なくとも「未公認」と公言した大会の三位国（注・一位日本、二位中国）を選んだのは、軽挙のそしりをまぬがれない。こんなことではＩＨＦのアジア施策全般の信用をなくす時が来よう。

女子では、やはり第二補欠にアメリカをノミネートしておくのが常道ではなかったか。（杉山）

日本へＩＨＦから警告なし

日本協会は、ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）が、韓国協会に対し「女子チームがモスクワオリンピックをボイコットした場合、資格停止を含め、懲罰的な措置がとられる」という警告を行ったとする外電に対し「日本協会にはそのような連絡は、いっさいなかった」（大野金一総務担当常務理事）ことを明らかにした。

「クウェート国際」（来年2月）に参加

日本協会は、来年2月4日から15日までクウェートで行われる男子国際トーナメントに、男子ナショナルチームを参加させることに決めた。

同トーナメントは、クウェート協会が、建国(独立)20周年を記念して開く招待大会で、日本のほかスペイン、中国、オーストリアに声がかけられている、と伝えられる。

日本の代表チームが、選手権以外のアジア地域の大会に参加するのは初めて。

北朝鮮には男女で遠征

日本協会は、本誌既報のとおり今秋10月3日から10日まで(予定)初の朝鮮民主々義人民共和国への遠征を行なうが、このほど、同遠征には、女子が加えられることも明らかにした。

これは、同国協会との連絡で確認されたもので、男女とも全日本にとっては、明後年の世界選手権へ向けて、かっこうのスタート台を見つけることができたといえる。

82年のア大会で実施ムリ

アジアスポーツ界の消息筋によると、明後年十一月、インドのニューデリー、ボンベイなどで行われる第9回アジア競技大会で、ハンドボール実施の見こみは、ほとんどなくなった。この大会でハンドボールを採用させることは、ＡＨＦ（アジアハンドボール連盟）の大きな課題とされていた。

中国，女子も国際レベルの力示す

本誌前号速報のとおり，男女ナショナルチームは，4月上旬，海外遠征を行ない新シーズンの強化へスタートを切った。

男子は，4月1日から11日まで東ドイツを転戦，そのあと中国に立ち寄り，モスクワを目指してのチームアップに成果をあげた。通算成績は11戦5勝6敗。

一方，女子は4月11日から初の中国遠征，ベールをぬいだ中国女子界と6試合の交流を行なった。成績は1勝1分4敗。

全日本男女強化遠征（東ドイツ・中国）報告

男子、未調整つかれる

東ドイツ

遠征第1戦は、4月2日ロストックで、SC・エムポール・ロストック（東ドイツリーグ2位）との間で行われた。

SC・Eロストック 26（15―16, 11―8）24 日本

【日本】		得
GK	岡部	0
GK	福井	0
FP	蒲生	7
FP	池之上	7
FP	津川	2
FP	穂積	4
FP	大原	4
FP	生駒	0
FP	斉藤将	0
FP	柳川	0
FP	辻本	0
FP	中本	0
PT	（4）	24

（相手メンバーなし）

▽その他の出場者【日】FP志賀（得0）

○…昨冬12月の中国戦（オリンピックアジア予選決勝）以来の〃実戦〃。しかも、全員に時差の影響がのぞいて、いきなり0―4。

このあとGK岡部が好キープを見せ、攻撃陣も11分から7分間に4ゴール、18分4―5とし、21分穂積のポスト、22分速攻から蒲生で一気に逆転したのだが、残り5分から再びリズムが狂い、相手の攻撃を許してしまった。

後半、日本は16分12―14に迫りなお追いあげのムードだったのだが、エムポールの強化なポストからの割りこみに2点を許し、いちちは7点差までひらかれた。

終盤、はげしく攻め立てて27分22―24まで詰めただけに、中盤での崩れが惜しまれる。（東　嘉伸＝全日本男子コーチ）

前半で押しつぶされる

第2戦は、3日午後7時からポツダムで東ドイツ・ナショナルとの第1戦として行われた。観衆＝千二百

東ドイツ 32（13―12, 19―8）20 日本

【東ドイツ】		得
GK	W・シュミット	0
GK	ボワト	0
FP	ドライブロット	4
FP	ロスト	4
FP	ベイヤー	5
FP	D・シュミット	0
FP	デーリング	2
FP	エンゲル	0
FP	パール	5
FP	ビーゲルト	6
FP	ヘフツ	3
FP	ペスター	3
	（4）	32

【日本】		得
GK	福井	0
GK	岡部	0
FP	津川	2
FP	志賀	0
FP	蒲生	7
FP	斉藤将	0
FP	斉藤幸	0
FP	大原	4
FP	穂積	1
FP	池之上	6
FP	生駒	0
FP	柳川	0
PT		20

▽その他の出場者【日】FP中本（得0）

○…東ドイツのパワーをまともに受けて、押しつぶされてしまった。

立ちあがり両サイドから攻めこまれ2分0―2、日本は3分蒲生で1―2としたが、そのあとドライブロット、パール両45度のロング、ロスト、ビーゲルトらの鋭敏な動きとパワフルなシュートに、日本ディフェンスは、完全に引きちぎられてしまった。

日本の動きは、いぜん、時差が響いて未調整だったが、持ち前の攻撃パターンのタイミングがもう一つ合わず、いい場面をつくりながら、甘いミスをつづけて、前半で大勢を決せられた。（東）

攻撃の不調が誤算

第3戦は、4日午後6時からプレムニッツで東ドイツ・ナショナルとの第2戦として行われた。

東ドイツ 26（15―9, 11―5）14 日本

【東ドイツ】		得
GK	D・シュミット	0
GK	ローデ	0
FP	ロスト	1
FP	ドライブロット	2
FP	D・シュミット	2
FP	ランゲ	0
FP	カンゲス	7
FP	パール	8
FP	ビーゲルト	3
FP	ヘフツ	0
FP	ゲルラッヒ	0
FP	ベイヤー	3
	（6）	26

【日本】		得
GK	福井	0
GK	大畑	0
FP	蒲生	4
FP	津川	2
FP	池之上	3
FP	穂積	0
FP	斉藤将	2
FP	柳川	0
FP	大原	2
FP	斉藤幸	0
FP	志賀	1
FP	生駒	0
PT	（3）	14

○…この遠征、どうも出バナにダメージをうける。きょうも10分1―4。

しかも、13分以降、東ドイツのゆさぶりにあって連続5失点、19分2―9と大差がついた。

それにしても攻撃があまりにも不調。国際試合では久々といえるほど〃打つチャンス〃がつかめなかった。前半のシュート数は16（うちPT1）だ。

東ドイツは、モスクワで金メダルを狙うというだけあり、攻守とも、たいへんな迫力である。

日本が世界の上位を狙うには、1―1、2―2、3―3の段階で守り切れなくては勝ちにつながらない。

攻撃面では、ボールパスの目的を〃完知〃しなければ、テクニカルなシュートも生きてこない。

東ドイツのような大チームに当たると、まだまだ、日本には、課題が多すぎるが、モスクワを前にこのようなチームと2連戦できたことを、素直に喜ぶべきだろう。（東）

蒲生、公式戦75回　全日本・蒲生晴明選手（大同特殊鋼）は、この試合で公式国際試合出場が75回となり、中井武三選手（大同特殊鋼）のもつこれまでの最多記録74回をしのいだ。

蒲生は昭和48年9月のユーゴ戦（東京）でデビュー、75試合であげた得点は334、50年10月のアメリカ戦以降56試合連続得点を継続中

終盤の反撃実らず

第4戦は、6日午前11時からマグデブルグで、SC・マグデブルグ（今年度東ドイツリーグ優勝チーム）との間に行われた。

SC・マグデブルグ 29（10―16, 19―7）23 日本

【日本】		得
GK	福井	0
GK	岡部	0
FP	蒲生	6
FP	穂積	1
FP	池之上	5
FP	中本	0
FP	斉藤幸	3
FP	柳川	1
FP	志賀	2
FP	津川	1
FP	大原	4
FP	仲田	0
PT（4）		23

得	【マグデブルグ】	
0	シムロック	GK
1	シュミット	GK
0	シャッツ	FP
5	ビーゲルト	FP
2	カーラット	FP
4	クルーガー	FP
2	エシロ	FP
12	ドライブロット	FP
1	バウムガルツ	FP
0	ゲルラッヒ	FP
1	ファンス	FP
1	ホッペ	FP
29	（4）	

▽その他の出場者【日】GK大畑、FP辻本、志賀（いづれも得0）

○…相手は今シーズンの東ドイツチャンピオン。6人のナショナルプレイヤーがフル回転し、日本ゴールになだれこみ15分13－3、日本はまたしても守備網が切りきざまれた。

日本は津川、斉藤(将)が負傷、関(三陽)、山木(湧永)を日本に待機させてきただけにリズムが十分ではなく、後半、蒲生、池之上、大原らで11分14－21、さらに相手のメンバーチェンヂのスキをつき残り5分19－28から、一気に23－29まで点差を詰めたものの、前半の12点差は、とうてい補えるものではなかった。（東）

凡ミス病、最後まで治らず

第5戦は、7日午後5時30分からフランクフルト(東)で、ASKフォルバルツ・フランクフルト（東ドイツリーグ3位）との間で行われた。観衆＝六百

ASK・フランクフルト 24（13－6 11－8）14 日本

【日本】		得
GK	大畑	0
GK	福井	0
FP	大原	2
FP	池之上	4
FP	蒲生	4
FP	穂積	2
FP	斉藤将	0
FP	斉藤幸	0
FP	生駒	1
FP	辻本	0
FP	柳川	1
FP	志賀	0
PT（4）		14

得	【フランクフルト】	
0	フブシャー	GK
0	コストロス	GK
2	クック	FP
2	ムシック	FP
7	グルナー	FP
1	ベイヤー	FP
1	シュミット	FP
5	エンゲル	FP
1	スムック	FP
0	シュネル	FP
2	ノバク	FP
3	スマト	FP
24	（4）	

▽その他の出場者【フ】FPポイテ（得0）

○…最終戦、なんとか1勝をというファイトは、10分1－5の劣勢を18分4－6、22分6－8と食いついたのだが、肝心の後半、ミスが続出、ナショナル4人をかかえる相手を楽にさせてしまった。

日本は、攻めのコンビネーションが最後までとのわず、特に5試合合計116本のシュートミスがあったのは、大きな反省点になった116本の内訳は、GKに阻止されたシュート59本（50・8％）ゴール外にそれたシュート16本ディフェンスのカットにあったシュート26本、バーに当たってしまったシュート15本となっている。

なお、東ドイツ5戦のシュート率は44・7％。

また、ディフェンス面で、東欧勢を相手とした時の被PTは、今回5試合で31回課せられ、28点を失った。（東）

竹野奉昭監督の話 全員に集中力不足の反省が残る5戦だった。いぜんとして、東欧のA級チームを相手にした時のスタミナも課題がある。

モスクワまでの残る期間の強化テーマは、やはり精神力と体力の養成ということになろう。

中国（男子）

第1戦（遠征第6戦）は、4月12日午後8時10分から北京工人（労働者）体育館で人民解放軍「八月一日」クラブ（昨年度全国大会優勝チーム）との間で行われた。観衆＝五千

日本 20（10－7 10－10）17 人民解放軍「八月一日」ク

【解放】		得
GK	周森林	0
GK	張福梅	0
FP	陳志軍	5
FP	李景康	1
FP	李国才	0
FP	張新梅	0
FP	刘軍	0
FP	金百煉	7
FP	徐旭波	0
FP	李英才	3
FP	張生	1
FP	張保平	0
PT（0）		17

得	【日本】	
0	福井	GK
0	大畑	GK
5	津川	FP
2	穂積	FP
3	蒲生	FP
2	大原	FP
0	中本	FP
7	池之上	FP
0	斉藤幸	FP
0	柳川	FP
1	斉藤将	FP
0	生駒	FP
20	（2）	

○…「日中交流」の復活は14年ぶり。

といっても、最近2年間に2回のアジア選手権と昨冬のアジア予選で、4回の顔合せをしており、手の内が判った相手。東ドイツからの転戦にもかかわらず、日本選手の表情から疲れや緊張は、あまり感じられなかった。

人民解放軍は、そのチーム史がそのまま中国ハンドボール史ともいえる古豪。

今回もナショナル6人を含めてのメンバーで、闘志を燃やしていた。

その気力に、日本はいきなり4分0－3とされ、11分5－5といちどは追いついたが、なんと後半9分まで、いちどもリードができなかった。

反撃のきっかけとなったのは、後半3分、8分のPTを防いだGK大畑の美技。

この2本を許していたら、日本は、さらにペースを握るのが遅れただろう。

日本は8分30秒、池之上の速攻で13－12、さらに1分後、池之上が追討ち、12分には16－13と優位に立てた。

解放軍の粘りに26分18－17と詰めよられたが、日本はスカイプレーの成功でリードを守り、残り10秒、蒲生のPTでダメを押した。

（竹野奉昭＝全日本男子監督）

後半なかばから日本ペース

第2戦は、13日午後8時30分から北京工人体育館で、北京選抜軍との間で行われた。観衆＝五千

日本 26（16－12 10－10）22 北京選抜

【北京】		得
GK	刘貴	0
GK	張鉞	0
FP	李太平	5
FP	邱ユ平	2
FP	胡玉山	0
FP	夏抑	0
FP	高忠信	0
FP	王雄	6
FP	王映庭	2
FP	候克立	1
FP	祭建国	6
FP	崔澎	0
PT（4）		22

得	【日本】	
0	福井	GK
0	大畑	GK
3	仲田	FP
2	津川	FP
3	斉藤将	FP
2	斉藤幸	FP
6	穂積	FP
0	生駒	FP
6	蒲生	FP
1	池之上	FP
1	辻本	FP
2	大原	FP
26	（1）	

○…北京は、ナショナルと同じような体格と突進力をもつ好チームだった。

日本は、2分池之上のPTで先行したが、北京もスピードのある攻撃ですぐにポイントを返し、13分5－5のせりあいになった。

一進一退は後半なかばまでつづき、日本は8分15－14から蒲生の連続ゴールと大原、穂積で4点連取、どうにかペースを握った。

仲田、辻本の両新鋭とベテランの力が巧くとけあい攻撃面では無難なデキの試合だったが、ディフェンス面では、全員、視野がせまく、コンビもう一つであった。（東）

GK岡部の健闘光る

第3戦は、15日午後9時から合肥市のアウトドアコートで、安徽省選抜軍との間で行われた。観衆＝一万

日本 24（14－10 10－9）19 安徽省選抜

【安徽】		得
GK	謝継勇	0
GK	李貴宝	0
FP	胡井郎	0
FP	李和平	0
FP	査全国	4
FP	宋　文	6
FP	劉胜华	1
FP	王建民	1
FP	呉　税	0
FP	単　巳	7
FP	運軍民	0
FP	在　波	0

得	【日本】	
0	岡　部	GK
0	大　畑	GK
3	津　川	FP
1	斉藤将	FP
5	斉藤幸	FP
1	仲　田	FP
1	穂　積	FP
4	辻　本	FP
3	池之上	FP
4	蒲　生	FP
1	大　原	FP
1	柳　川	FP

24（4）　PT　（3）19

▽その他の出場者【日】FP生駒、志賀（いずれも得0）

○…屋外でのナイトゲーム、一万を越す観衆。

いささか不安なスタートだったが、スコアにもそれが表われ、3分0－3。あっさり先制されるのは、東ドイツ以来の悪いクセ。

しかし、調子のでてきた攻撃陣は、この劣勢を7分後にはあっさりはね返し、12分には6－3、17分斉藤(将)の鮮やかなポストプレーで8－4とリードを奪った。

ところが、どうも守りがもろい安徽の粘りにあって24分8－9と追られ、後半1分には10－10と振り出しへ戻された。

そればかりか4、5分の失点で10－12とされる乱調だったが、10分をすぎて、相手反則退場のスキをつき再び攻勢に転じ、14分池之上で17－16のあと連続4ゴール、今度こそ勝負を決めた。PT4本をノーマーク4本を止めたGK岡部の健闘がなければ危かった。（東）

天津、強引なプレー

第4戦は、17日午後8時50分から合肥市のアウトドアコートで天津チームとの間で行われた。観衆＝九千

日本 26（11－8、15－11）19 天津

【天津】		得
GK	李建設	0
GK	胡金豹	0
FP	果志国	0
FP	穆瑞正	3
FP	王浄修	0
FP	曹久利	4
FP	邢建剛	9
FP	汪友来	3
FP	王雪庸	0
FP	刘悌成	0

得	【日本】	
0	福　井	GK
0	大　畑	GK
6	蒲　生	FP
4	中　本	FP
3	穂　積	FP
1	辻　本	FP
2	仲　田	FP
3	志　賀	FP
4	池之上	FP
1	柳　川	FP
0	津　川	FP
2	生　駒	FP

26（3）　PT　（3）19

○…この試合に限らず、中国のレフェリーは、ボールを持つプレイヤーの動きを有利に判定する傾向が強い。

このため、かなり強引なカットインプレーが多くなり、シュートもいきおい強引になってくる。

前半なかばまでは激しい点のとりあい。日本のペースになったのは12分7－6のあとの中本の連続ゴール、後半は蒲生と進境著しい左腕池之上が豪快に打ちこんで点差以上の楽勝。（東）

ミスプレーで苦戦

第5戦は、20日午後8時30分から上海市体育館で、上海選抜との間で行われた。観衆＝四千

日本 26（12－12、14－10）22 上海選抜

【上海】		得
GK	刘　翔	0
GK	王立友	0
FP	姜菜根	10
FP	馮駿杰	0
FP	張国葉	4
FP	李慕連	0
FP	王立順	0
FP	蔡屯平	2
FP	黄沾明	0
FP	江山明	6
FP	王　警	0
FP	秦隔坤	0

得	【日本】	
0	大　畑	GK
0	福　井	GK
3	津　川	FP
2	斉藤幸	FP
6	蒲　生	FP
4	生　駒	FP
1	斉藤将	FP
1	大　原	FP
0	中　本	FP
1	穂　積	FP
6	池之上	FP
2	柳　川	FP

26（7）　PT　（4）22

▽その他の出場者【上】GK黄建民（得0）

○…勝つには勝ったが今ひとつすっきりしなかった。

判定が北京地区、合肥地区とちがいすぎ、そのうえ日本にミスが多く出たのだ。

後半ようやく速攻、サイド攻撃がまとまり10分20－13としたのだが、このあと、またもミスプレーがつづき、18分には22－18とされた。両チームともラフな展開だったのは反省される。（東）

泣かされた「判定の違い」

第6戦（遠征最終戦）は、22日午後8時30分から上海体育館で、広西選抜軍（昨年度全国体育大会2位）との間に行われた。観衆＝四千三百。

広西選抜 27（13－9、14－16）25 日本

【広西】		得
GK	龐　銘	0
GK	陳玉柳	0
FP	胡エ東	2
FP	郭宇生	5
FP	邓善軍	7
FP	張湘鴻	3
FP	宋文剛	1
FP	黄黎明	3
FP	曽　光	2
FP	廖国強	0
FP	呑燕康	0
FP	黄华河	4

得	【日本】	
0	岡　部	GK
0	大　略	GK
1	津　川	FP
5	蒲　生	FP
4	穂　積	FP
3	仲　川	FP
2	辻　本	FP
0	志　賀	FP
3	生　駒	FP
6	池之上	FP
0	柳　川	FP
1	大　原	FP

25（2）　PT　（8）27

▽その他の出場者【日】GK福井（得0）

○…全日本がアジア地域のチームに敗れたのは何年ぶりだろうか。

敗因を判定にかこつけるのは、ナショナルらしくなかろうが、やはり乗りこみ試合は難しい。

◇遠征選手団

【役　員】

- 団　長　伊藤　和夫
- 総　務　松浦　滋
- 男子監督　竹野　孝昭
- 同コーチ　東　嘉仲
- 女子監督　池田　鉄哉
- 同コーチ　緒方　嗣雄

【男子選手】

・GK

福井	秀人	（湧永）	180
岡部	大	（大崎）	182
大畑	孝広	（本田）	184

・FP

津川	昭	（湧永）	180
穂積	豊彦	（湧永）	180
生駒	靖夫	（湧永）	185
池之上	孝司	（湧永）	185
志賀	良弘	（湧永）	187
大原	真造	（大同）	175
柳川	実	（大同）	175
蒲生	晴明	（大同）	192
中本	満明	（大同）	184
斉藤	将一郎	（湯沢）	187
斉藤	幸司	（大崎）	174
辻本	孝仁	（イ倶）	177
仲田	稔	（千葉）	184

【女子選手】

・GK

山本	一枝	（ジャ）	167
矢部	登茂子	（ジャ）	172
井村	文光子	（立石）	170

・FP

染谷	保子	（日ビ）	164
伊藤	珠美	（日ビ）	159
辻本	典子	（ジャ）	166
山本	二三代	（ジャ）	161
植田	和子	（ブ工）	159
山村	雅子	（ブ工）	159
島田	さゆり	（日立）	171
水上	清美	（日立）	166
桑原	広子	（立石）	163
姫野	五十鈴	（立石）	153
西	典子	（大崎）	168
寺西	富美枝	（重機）	168
八木	千津子	（北銀）	155

・数字は身長（cm）

全試合を通じて8本の被PT、後半は開始から9分までに蒲生、志賀、蒲生と連続3回の反則退場で一時は四人を残すだけ。策のたてようもなかった。

そのうえ、後半のヤマ場では、広西のフリースローは、シュートが決まるまで「アゲイン」がつづき、日本の反撃は、やたらとラインクロスの判定だ。

試合は日本が押し気味、前半18分10—7と3点差をつけたあと、リードを保ちつづけた。

後半、広西は、チャージ気味の強引なプレーで日本ディフェンスを切り崩しはじめ18分19—18と初のリード、日本は後手にまわった。勢いづく広西は18分23—20とし27分には27—23と勝利を決定づけた。

日本にとっては、遠征最終戦でもあり苦い1敗だが、なんとも後味がよくなかった。（東）

竹野奉昭監督の話　極力、若手を使うことで臨んだ中国シリーズだが、一応、その成果を得たと思っている。

中国は、トップレベルのレベルアップを狙ってかナショナルを向けてこなかったが、各チームとも日本の特色を採り入れ、相当な力を貯えてきている。今後の中国戦は、ますます予断を許さなくなろう。

中国女子とは1勝1敗

中国（女子）

第1戦は、4月12日午後7時から北京工人（労働者）体育館で、中国女子ナショナルとの第1戦として行われた。（観衆は男子に同じ、以下同）

中国 21（14—5、7—8）13 日本
21（3）PT（1）13

【日本】	得
GK 矢部	0
GK 井村	0
FP 欒谷	0
FP 島田	6
FP 西	3
FP 桑原	4
FP 姫野	0
FP 伊藤	0
FP 水上	0
FP 植田	0
FP 山村	0
FP 寺西	0

【中国】	得
GK 王丰兰	0
GK 武那江	0
FP 呉銀兰	0
FP 呉萍	5
FP 韓秀芳	0
FP 楊萍	2
FP 蒋鳴慶	2
FP 王琳娣	0
FP 周玲	0
FP 張佩君	4
FP 刘莉萍	8
FP 郭英澤	0

▽その他の出場者【日】▽FP八木山本二、辻本（いずれも得0）

○…アフリカ勢やフランスとの国際交流が伝えられながら、その実力については、まったく資料のなかった中国。

日本は、緊張のスタートだったが、1分島田のロングで先制、落ち着いたかとみえた。

しかし、中国も呉（萍）のロングをみせ、そのあともヨーロッパスタイルの、かなりパワフルなプレーで日本勢を押しこんだ。

特に刘の強引なカットインとフェイントプレーは、切れ味もよく日本は、彼女一人に15分まで4点を奪われ5—10とリードを許した。日本も島田のロングなどで食い下ろうとするが、相手の荒い守りを突き切れず、前半を終って9点差の致命傷を負った。

中国は、両サイドの攻撃力を基に、左右45度が強引に割りこみシュートを狙ってくる。パステクニックもかなりあり、韓国を思わすプレーもしばしばだった。

攻撃の多彩さに比べ、ディフェンスは荒く、すぐつかまえるプレーで、日本選手の顔をしかめさせた。

審判はアドバンテージを多くとり、チャージを誘おうとする日本のプレーは、ほとんど認められなかった。そのため、中国のカットインは、オーバーステップ気味でも見逃されることになり、日本のディフェンスは、対応策を見つけ出せぬままに試合が終ってしまった。（池田鉄哉＝全日本女子監督）

日本、パスミスで自滅

第9戦は、13日午後7時15分から北京工人体育館で、北京選抜軍との間で行われた。

北京選抜 20（10—7、10—8）15 日本

○…北京は体重、身長ともに日本を上廻っており、チームカラーは、ほとんどナショナルに同じ。

20（3）PT（1）15

【日本】	得
GK 矢部	0
GK 井村	0
FP 伊藤	0
FP 寺西	0
FP 西	0
FP 島田	9
FP 植田	0
FP 欒谷	1
FP 水上	5
FP 山本二	0
FP 桑原	0
FP 辻本	0

【北京】	得
GK 馬丹丹	0
GK 王兰菜	0
FP 王霞	1
FP 李筋菜	3
FP 張春香	4
FP 千秋海	0
FP 謝鳴	1
FP 王琳娣	4
FP 殷秋霞	6
FP 郭英準	0
FP 于秀海	1
FP 宛秀敏	0

時おりスカイプレーなどものぞかせた。

日本は17分6—6と第1戦よりはるかによい動きを示したが、そのあとパスミスを相手に拾われ速攻をうけてしまった。

3点差の後半、日本は島田の健闘などで14分14—15と追いあげ、一気のたたみかけを期待させたが再びパスミスなどが出て、北京の立ちなおりを許してしまった。（池田）

攻防両面で詰めの甘さ

第3戦は、15日午後7時30分から合肥市のアウトドアコートで、安徽省選抜軍との間で行われた。

安徽省選抜 18（9—7、9—4）11 日本
18（3）PT（2）11

【日本】	得
GK 井村	0
GK 矢部	0
FP 水上	1
FP 島田	4
FP 欒谷	1
FP 西	2
FP 伊藤	1
FP 姫野	1
FP 植田	0
FP 辻本	0
FP 寺西	0
FP 桑原	1

【安徽】	得
GK 袁慕燕	0
GK 周晉凤	0
FP 王明星	3
FP 李翠琴	3
FP 陳应芳	1
FP 王平	1
FP 陳兰广	4
FP 甘春燕	1
FP 張清	0
FP 徐桂芳	2
FP 李兰	0
FP 陳診	3

▽その他の出場者【日】FP山本二

（得0）

○…日本は、中国の試合ぶりに大分なれ、速攻がよく出て、走りでは安徽省を上廻っていたが、シュートの失敗から主導権を握れず逆に20分6－7のあと2点を失い相手ペースとなった。

後半になると、安徽省はプレス気味の守りをみせ、日本のパスをカット、しかも、日本がボールに手がつかずキャッチミスをつづけたため、一気に攻めこまれてしまった。

日本は、攻防両面で最後の詰めが甘く、後半になると相手に乗せられてしまうのは、キャリアの差としかいいようがない。

ただ、試合の流れの読みとかけ引きが出来てくれれば、負ける相手ではないと感じた。（池田）

多彩な攻めで初勝利

第4戦は、17日午後7時30分から合肥市のアウトドアコートで中国女子ナショナルとの第2戦として行われた。

日本 16（8－6、8－7）13 中国

	得	【日本】	【中国】	得
GK	0	矢部	武邢江	0
GK	0	井村	王丰兰	0
FP	0	染谷	韓秀芳	0
FP	6	島田	楊淑江	1
FP	2	西	楊萍	1
FP	5	山村	周玲	0
FP	1	水上	呉萍	1
FP	0	桑原	刘莉萍	7
FP	0	寺西	張佩君	2
FP	1	姫野	陳応芳	0
FP	1	伊藤	王琳娣	1
FP	0	植田	蔣鳴霞	0
	16（7）	PT		（4）13

○…嬉しい1勝であった。第1戦の経験を活かし「両サイドでシュートと切り崩しを許さないように、サイドのディフェンス強化。

ロングを打たせないため速攻にもちこむように」と指示しての対戦だったが、一応、この策は効果があった。

チーム全体の動きもよく、特に15分すぎからの速攻と、セットからのロング攻法、山村のPT成功など得点のバラエティが富み、初めてリードのうちに、前半を終えた。

元気づいた日本は、後半も、これまでのようなミスも少なくなり中国の突進を巧みに守り切るなど得点こそせりあったが、プレーに余祐があった。

12分12－11から13分のPTを山村が決め、14分姫野で14－11と優位を保ち、GK矢部の好キーピングもあって勝利をあげた。（池田）

若さ露した日本

第5戦は、20日午後7時から上海市体育館で、上海選抜との間で行われた。

上海選抜 13（7－4、6－6）10 日本

○…上海は中国のトップチームナショナル6人を加えており、この地域は、女子ハンドボールの強化重点区でもあるという。

第4戦の勝利がフロックでない

	得	【上海】	【日本】	得
GK	0	武莉江	矢部	0
GK	0	安建紅	山本一	0
FP	0	王萠雅	染谷	0
FP	2	呉銀三	桑原	1
FP	1	蔣鳴慶	西	0
FP	1	呉慶敏	島田	5
FP	2	楊莉琴	水上	2
FP	2	張佩君	伊藤	1
FP	1	韓秀芳	山本二	0
FP	4	劉萍	寺西	0
FP	0	謝秀静	姫野	1
FP	0	趙菊芳	山村	0
	13（1）	PT		（3）10

▽その他の出場者【日】FP辻本（得0）

ためにもぜひ勝ちたかったが、前半から、じわじわ点差を開かれた。日本選手は若いだけに、好不調の波が激しすぎる。（池田）

桑原が引き分けゴール

第6戦（遠征最終戦）は、22日午後7時から上海体育館で、天津選抜軍との間に行われた。

日本 13（6－8、7－5）13 天津選抜　引き分け

	得	【日本】	【天津】	得
GK	0	山本一	王丰藍	0
GK	0	矢部	朴季宇	0
FP	1	染谷	楊淑江	3
FP	1	島田	王月霞	1
FP	4	水上	呉萍	5
FP	4	辻本	李季琴	0
FP	0	寺西	宋恵英	1
FP	1	桑原	楊鳳云	0
FP	0	伊藤	周玲	3
FP	0	八木	王春英	0
FP	0	姫野	朱素菜	0
FP	2	山村	范蓮云	0
	13（2）	PT		（0）13

▽その他の出場者【日】FP西、植田（いずれも得0）

○…残り5秒、日本は桑原ゴールで13－13、引き分けに持ちこんだが、ノーマークやPTの失敗などで、勝てる試合を落とした。

しかし、後半10分8－11の劣勢を追いあげた攻守は、この遠征の一つの成果を示したものだ。

中国は予想どおり国際的なレベルにあったが、日本も、若手揃いで、よく戦ったと思う。

国内合宿で、ほとんどチームとしてのまとまりを仕上げるまでに至らぬうちに中国入りしたハンデを考えれば、このあとの強化合宿で、かなり上昇線を描ける希望の出た遠征といえる。（池田）

中国、来年来日か

日本協会は、来年日本で男女の日中交流が行われる可能性が強くなったことを明きらかにした。

これは、今回訪中した日本チームに、中国協会から「毎年の定期交流」が持ちかけられたもの。

日本協会の定期国際交流には東ドイツがあり、各全国連盟は高校大学、実業団が日韓交流をもっている。

松浦総務が審判

中国協会の要請で、日本選手団の松浦滋総務は、中国審判員と組んで男子3試合、女子3試合の審判をつとめた。

サウジアラビアの来日中止

日本協会は、6月に予定したサウジアラビア男子ナショナルチームの来日が中止になったと緊急発表した。

サウジアラビアは、かねてから日本で強化練習と親善試合を行ないたいという希望を寄せ、日本協会は、受け入れを前向きに検討、5月はじめ正式決定にこぎつけ6月20日に来日(成田国際空港着)、7月12日まで23日間、滞在することが決まり、この間、全日本または全日本ジュニアなどと6試合のほか、約10日間の強化練習を、東京、名古屋などで行なうことになっていたが。5月29日午後、突然「来日を中止したい」旨の公電が日本協会へ届けられた。

日本協会のたてたスケジュールをほぼ了解、到着便まで決めていたサウジアラビアが、急に「中止」を伝えてきた理由は、本誌発行日までには詳らかにされていない。

日本協会は、サウジアラビア側の要望もあり、ジュニア・ナショナルと2試合のほか、名古屋、豊田(愛知)、岐阜、川口（埼玉）などで全日本や地元チームと親善試合を行う予定にしていた。

6月21日、東京で強化試合

日本協会は、サウジアラビアの来日中止、さらには、モスクワ・オリンピックへの不参加によって6月21日東京体育館での全日本男子の公開試合についてこのほど、同日午後に「第8回世界学生選手権候補チーム」と対戦することを決め発表した。

全日本男子は、モスクワ行きの指名をうけていた14選手（本誌15頁参照）によってチームを組む。

また、この試合に先立って、女子のナショナルチーム強化試合も行われる予定。

全日本が強化試合

モスクワ・オリンピックを目指していた男子ナショナルチームは、5月5日大阪で紅白戦、17日名古屋で大同、本田技混成軍と強化試合を行ない、混成軍には23—16で勝った。

「テラモ国際」には不参加　全日本ジュニア

日本協会は、7月に予定していた全日本男女ジュニアの「第8回テラモ（イタリア）国際ユース・トーナメント」への参加を中止すると発表した。

同トーナメントは、テラモ市のインテラムニアHCの主催する国際的な年令別大会で、日本は、男女とも「満21才以下クラス」にジュニアナショナルを派遣する意向だった。

中止の理由は、特に明きらかにされていないが、男子は、このトーナメント参加を目標に、全国各ブロックや、各地学連から候補選手のノミネートをうけていた。

今後の「ジュニア対策」については、6月中に、強化コーチ群から新構想が明きらかにされる予定

「世界学生」をジュニア事業に

日本協会強化部長を兼ねる荒川清美理事長は、今冬12月、フランスで開催が予定される第8回世界学生(男子)選手権を、ジュニアナショナル強化路線の一環とするよう、全日本学連に要望していることを明らかにした。

この問題は、5月11日の全国理事会(東京)でも協議されているが全日本学連側は、基本的には了解したものの、すでに多方の手ハズをととのえた今冬の代表チーム（全日本学生選抜軍）は、これまでどおり、全日本学連主体で進めることを強く要望、強化部—全日本学連間に、ズレを生じさせている

荒川強化部長は、来年12月の第3回世界男子ジュニア選手権（ポルトガル）を前に、世界学生選手権は、かっこうの強化舞台とみており、代表チームの選考などは、強化スタッフ中心に運ばせることを希望、竹野奉昭・全日本男子監督も、世界学生選手権のコーチ陣は、日本協会男子強化コーチ群から選ばれるのが望ましいとしている。

しかし、全日本学連は6月8日の全日本学連役員会（東京）で、第一次選手選考を行なう予定をたて、準備をととのえており突然ともいえる日本協会の申し入れには〝拒否反応〟。

それに、世界学生選手権開催の打診があった2月末ならともかく5月に入ってからの要望は論外とする空気が強く、日本協会の構想は「次回以降の検討事項」にしたい意向だ。

本誌〆切り時点（5月24日）で事態の進展はないが、最終的には日本協会ジュニア強化事業を名乗って全日本学生選抜軍を派遣、コーチ、選手の選考は全日本学連に一任、団長を含む役員構成にだけ日本協会強化サイドの意向を盛りこむことで落ちつきそうである。

なお、世界学生選手権に日本は過去3回参加しているが、いずれも「学連事業」とされ、日本協会は、その派遣にタッチしていなかった。

26年ぶり東京開催
来年のインター・ハイ

全国高体連は、このほど、来年度の全国高校総体の日程、会場などを協議。ハンドボール（第32回全日本高校選手権）は、8月2日から7日までの6日間、東京・八王子市（中大体育館の予定）で行われることが確定した。

東京での開催は、30年の第6回大会（駒沢球技場・11人制）以来26年ぶりのこととなる。

なお、来年の総体は、神奈川県が6競技をうけもち〝主会場〟となる。

京都で「全国クラブ大会」

京都協会は、昨年まで静岡協会が主催していた「全国男子クラブ大会」、岐阜協会が主催していた「ギフ・カップ（全国女子クラブ大会）」を引きつぐことになり、7月4、5、6の3日間京都府舞鶴市の市体育館を主会場として行う。男女ともトーナメント法式で参加申しこみは6月7日まで。

★第21回全日本女子実業団選手権

6月6日から8日まで名古屋市の愛知県体育館に11チームが参加してトーナメント法式で争われる今シーズン初のビッグトーナメントだ。

どのチームも、新旧交代が行われ、いわゆる〝新陣容〟としては初対戦だけに、ファンはもちろん各ベンチも、相手の戦力に興味深げな視線を送ろう。

特に、日本リーグが発足してからは、この大会は、かっこうのトライアルでかけ引きも盛んだ。

前回の上位のランクは①日本ビクター②ブラザー工業③ジャスコ④東京重機⑤日立栃木だったが、今回は、大きな変動がありそう。

実連関係者やスポーツライターの共通しているのは「ビクター、ジャスコ2強時代から乱立時代へ」というみかただ。

【組み合せ】

日本ビクター(茨城)
東北ムネカタ(福島)
大和銀行(大阪)
日立栃木(栃木)
東京重機(東京)
ジャスコ(三重)
立石電機(熊本)
和歌山県商工信用組合(和歌山)
大崎電気(埼玉)
北国銀行(石川)
ブラザー工業(愛知)

大会ガイド

★全日本女子実業団選手権

(6月6日～8日・名古屋)

最近3年間、四大大会(全日本総合、日本リーグ、全日本実業団国体)の優勝タイトルは、ほぼ完全にビクターが握り、ジャスコが2回、ブラザーが1回手中にしているにすぎない。

この様相が、今シーズンは、たしかに変わりそうである。

それも、ビクター、ジャスコが戦力ダウンしての〝乱立〟ではなく、各チームの実力アップによるもの、というのだから楽しみだ。

4連覇を狙うビクターは、加藤穂積の両軸が健在のうえ、染谷、伊藤の成長で、攻撃面では、昨シーズン以上にバラエティに富んでいる。わずかに不安といえば、GK鈴木の退陣した穴を、いきなり新人・渡辺(太田二高出)が埋めなければならないことだろう。

ジャスコは、河田、金田が抜けたが、松下が頑張るのは、山本、辻本らの若いFP陣にとって大きな支えだし、GK矢部が、国内一の実力を備えはじめたのも、たいへんなプラス材料だ。

戦力充実の日立、立石

2強の力が、それほど低下していないにもかかわらず、混戦が予想されるのは、各チームの若手が進境を示していることと、新戦力の補強が充分であったからである。

特に各チームがマークしているのは日立栃木。

全日本の主力アタッカー島田、水上の二枚を持ち、ともに絶好調特に島田は、4月の中国遠征で31点(6試合)を叩き出し、新・全日本の看板になりつつある。

水上も、昨秋の世界ジュニアですっかり自信をつけ、いちだんと攻撃力を増している。

しかも、実績のある吉田、大輪GK寺沢、若い沖山らの布陣不動だけに、準決勝でビクターを破るようなら、一気に宿願の全国タイトルを飾ることもできよう。新人では手打(小松市女出)が目立つ。

立石電機も、ようやく〝復活の日〟の手がかりをつかめそうだ。

紀野の復調のほか、桑原、GK井村の充実、さらに橋の口の抜けたあとへ迎えた木下(武庫川大出)は、今季〝最優秀新人〟の折り紙をつけられている好選手だ。

このほか、超高校級といわれていた野田(熊本女商出)も、172cmと体格に恵れ、即戦力として期待がかけられる。準々決勝のジャスコ戦はみものとなろう。

名手・中川と宮平、GK山本が抜けたもののブラザー工業は、山村、植田の安定、則武の進境は充分トップクラスの力をキープしている。問題は、中川の備えていたリードマンシップを、誰がこなし切るかだろう。順当ならベストフォアの組み合せは、ビクター×日立、ジャスコ×ブラザーとみるが、ジャスコに代って立石の可能性はかなりあるし、東京重機が日立を大崎電気がブラザーをおさえる波乱も、ないとはいえない。

重機は、日本リーグ復帰でチーム全体にもハリが戻った。鈴木を要に寺西、古谷、沖山、池田らのチーム力は侮れない。ことに寺西、古谷が当たれば、破壊力はA級といえる。

大崎も西、石井、陽田、佐々木らで復調の兆がみえ、谷口監督も今年にかけている。

八木、千歩、中山、本田らメンバー不動の北国銀行との一戦は、序盤きっての好カード。

ムネカタ、大和銀行、和歌山県商工信用組合の日本リーグ二部勢は、今大会のような場で、上位との差をつめておきたいところ。

大和は緒方監督がチームをつかみはじめており注目される。

和歌山は、地元和歌山商から山本ら4人とGK宮楠(粉河高出)を加え、チーム力の整備に意欲を示した。

ビクター、日立、ブラザー、ジャスコまたは立石が四強戦に勝ちあがったとして、このなかから最上位へかけあがるチームを予想するのは難しいが、調子の波をつかめば、日立栃木が最右翼ではなかろうか。

〈新時代〉というキャッチフレーズどおりなら日立×立石という決勝も充分考えられる。

なお、男子の実業団選手権は9月1日から3日まで大阪の予定。

日韓男子社会人は延期

全日本実連は、6月下旬に予定していた第8回日韓男子社会人交流をしばらく延期すると発表した

同交流は、韓国から社会人チームを招いて、各地で5試合を行う予定だったが、韓国協会から「国内情勢」を理由に延期が伝えられたもの。

昭和55年度JHA レフェリーコース（前期）試験問題

〔1〕 次の文の（ ）中に適切な語句の記号を入れよ。

タイムキーパーは，ボールを保持しているチームが，明らかな（1）チャンスのときのボールを（2）していないチームの（3）に対しては笛を吹いてはならない。

得点のチャンスではない場合には，ただちに（4）を中断してし（5）たプレイヤーを罰しなければならない。競技は，競技が（6）されたときにボールのった（7）からボールを保持していたチームのフリースローあるいはその時の（8）にふさわしい，スローによって再開される。明らかな得点のチャンスが（9）によって（10）されたならば，違反したチームはペナルティースローで罰せられなければならない。

ア 阻止　イ 退場　ウ 競技　エ 保持　オ 状態　カ 中断　キ 失格　ク 不正交替　ケ 位置
コ 違反　サ プレイヤー　シ 得点

〔2〕 次の文中の（ ）の中に適語を入れよ。

ペナルティースローの判定をすることによって（1）したチームが（2）になるときには，ペナルティースローの（3）をしてはならない。ゴールエリアの附近で（4）の（5）によってシュートのチャンスが（6）され，得点できなかったときには（7）ペナルティースローを判定しなければならない。反則があっても（8）のプレイヤーが充分にからだとボールを（9）できる状態ならば，ペナルティースローの（10）をしてはならない。

〔3〕 次の文で正しいものには○印，間違っているものには×印を解答欄に記入せよ。

1. 膝をつき，坐り，または横たわってボールを端技することは危険なプレイで禁止されている。
2. 競技中のボールがレフェリーにあたり，止ってしまったのでその位置でレフェリースローにした。
3. 相手の持っているボールを片手または両手で奪いとることはできない。
4. 前半の競技時間を5分長く行なったので後半にその時間を短かくして競技させた。
5. ゴールキーパーがシュートしたボールを阻止した後にボールがフィールドにかえるのを足で止めゴールラインに出したのでゴールスローにした。
6. ゴールキーパーがセンターラインを越えた地点で，相手の速攻のボールを阻止したのでペナルティスローを与えた。
7. ゴールスローのとき，相手側はフリースローラインの内側で防禦してもよい。
8. ころがっているボールをくりかえし，片手でころがすことはよい。
9. スローインをゴールに向ってスローしたらキーパーが手を出して触れゴールに入ったので得点にした。
10. レフェリーAに警告されたプレイヤーが，しばらくしてレフェリーBによって警告されたときには，そのプレイヤーは退場にはならない。

〔4〕 次の各問のレフェリーの判定および処置について適切なものを記号で答えよ。

① Aチームは3回目のストーリングを判定された。
　A Bチームのフリースローでボール保持者を退場。B Bチームのフリースローで主責任者を退場。
　C Bチームのフリースロー。D Bチームのフリースローで主責任者を失格。

② A6がシュートしてゴールインするかに見えたが，競技場外でキャッチボールしていたボールがゴールエリア内にころがり，シュートしたボールが当たってボールがフィールドにはねかえった。
　A そのまま競技続行。　B 得点を認める。
　C Aチームのペナルティースロー。　D フリースローライン上でレフェリースロー。

③ B5のホールディングを判定した。B5につかまれていたA3がはなれ際にB5を足でけとばしたのでA3を退場させた。競技開始は，
　A 競技中断中なので退場はない。B Bチームのフリースロー。
　C フリースローライン上でレフェリースロー。D Aチームのフリースロー

〔5〕 次の文章の場合レフェリーはどんな処置をすればよいか要点を記せ。

1. Bチームの№1ゴールキーパーが退場になった。№12は登録されているが初心者。元キーパーの経験のある№6がユニフォームを変えて出場したとき。
2. 両チームのプレイヤーに何の反則もなく，二人が衝突してボールがその下にとどまってしまったとき。
3. キーパーフローまたは，ゴールスローをしようとしているとき，相手側プレイヤーが速攻を阻止するため，それぞれ非合法な方法でスローを妨害したとき。

ハンドボールは名古屋市と三重県（四日市または鈴鹿）

「名古屋オリンピック」の施設配置計画

一九八八年（昭63）に名古屋で夏季オリンピックをと、誘致運動を推し進めているオリンピック問題協議会（名古屋市）は、５月28日、同オリンピックの競技施設配置計画を発表した。

同協議会は、名古屋市のほか愛知、岐阜、三重の三県も加って構成されており、すでに「名古屋オリンピック」は、ハンドボールなど21競技を開催する構想をまとめあげている。

この日の発表では、21競技のために34施設（うち新設５）が必要とされ、ハンドボールは名古屋市（南区が有力）に新設される「名古屋市総合体育館」と三重県の四日市市中央緑地体育館または鈴鹿市体育館となっている。

施設配置計画の発表は「名古屋オリンピック」実現の期待をいちだんと強めるものだが、ハンドボール関係者も、今回具体的に会場名が表面に出てきたことで大いに意欲を燃えあがらせている。

同協議会によると、この計画はさらに政府と検討したうえで、まとめるが、ＩＯＣ（国際オリンピック委）に正式立候補届出をするにあたっての「最終的なものにしたい」といっている。

「名古屋オリンピック」をうたいながら、ハンドボールが三重県下にまたがることに疑問をもつ読者もあろうが、これは、ＩＯＣがオリンピックの〝広域開催〟を認めていることによるもので、例えばバレーボールは名古屋市のほか岡崎市（愛知）、岐阜市、サッカーは名古屋市以外、豊橋市（愛知）、四日市市（三重）があげられている。

ミュンヘンオリンピック（一九七二）のハンドボールは、ミュンヘンのほか、ボブリンゲン市、ギョッピンゲン市、モントリオールオリンピック（一九七六）では、モントリオールのほか、ケベック市が使われている。

また、会場数については、今夏のモスクワオリンピックでは、ディナモ・モスクワクラブのスポーツホールとソルニキー体育館が用意されているだけ。これで男子12カ国全36試合、女子６カ国15試合をまかない切れるとしており「名古屋オリンピック」も、これを参考に２会場案が割り出されたもの。

名古屋は古くから強豪が次々と輩出した所、現在も大同特殊鋼、ブラザー工業の男女両雄が本拠をおき、四日市は田村紡―ジャスコの伝統、鈴鹿は本田技研鈴鹿のホームグラウンド、いずれもハンドボール界に縁の深い都市である。

なお、「名古屋オリンピック」は、まだ正式な立候補手つづきが行われているわけではなく、来年３月の届出〆切りまでに国内世論がどう盛りあがるかが一つのカギだ。

昭和53・54年度

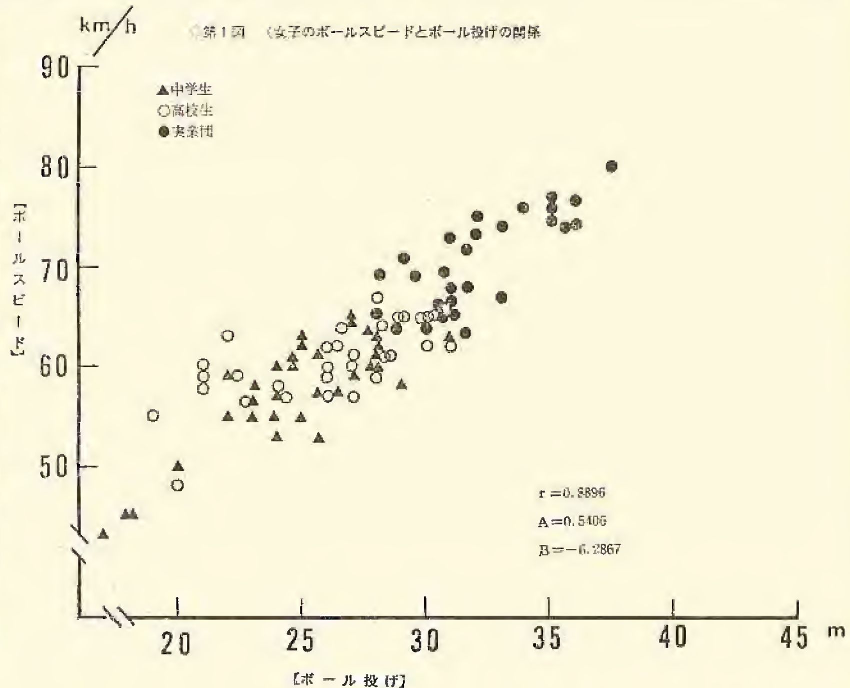
続・トレーニングドクター群リポート

日本協会強化部
トレーニングドクター群
（阿部徳之助、新井節男
豊島進太郎、北川勇喜）

日本協会強化部トレーニングドクター群による第四回目の測定は昭和五三年十二月十六日に東京重機において男子ナショナルおよびヤングナショナル選手を対象に行った。その結果は第一表(21頁)の通り。ここでは四カ月前に測定を実施しトレーニング処方PASTⅠを提出した結果のトレーニング効果をみることが一つの目的であった。その結果は短期スタミナ能力で1%、投能力で5%、協応力で1%の改善がみられたが、ジャンプ能力と50m走では改善がみられなかった。このことはトレーニング処方の方法論に問題があるという我々の反省もあるが同時に選手個々人が運動処方を忠実に規則的に実施したのかという疑問が生じた。過去に具体的なトレーニング処方を個々人に与えられていなかったためとまどいとともに、各所属チームに合流した時点ではそのチームの練習計画を消化することが精一杯でナショナル選手としてプラスαの努力をする精神的時間的余裕がなかったのではなかろうか。

この測定に参加した25名の男子選手の能力を年令別に検討してみた。年令分布は一九才より二六才であるがこの間の総体的な傾向として若い選手層よりも経験の豊かな選手層の方が良い成績を示した投力・協応力などの技術要素を含むものだけでなく短期スタミナテスト・十二分間走などの基礎的な走力において若い選手の能力が劣るということは将来に伸びる余地をのこしているという希望はもてるものの努力の度合の乏しさを物語っているものであろう。尚、十二分間の成績を詳細に眺めてみると男子ナショナルの最大値三四一六m、最小値二八〇七mであった女子ナショナルでは三〇八〇mの最高値と二六六〇mの最小値を得た男子ナショナル・ヤング選手のうち六名の選手は女子最高値を下廻る結果である。最近のハンドボールでは以前より走り廻る度合が少なくなった印象は受けているが本競技の特質の一つである走についてはより多くの関心をはらうべきであり、個々人のプレーやコンビプレーは全て全身的な持久力的能力を基盤においてなされる戦術であることを再確認したいものである。

昭和五三年十二月にはトレーニング処方（PARTⅡ）を作成し配布した。その内容はPARTⅠと同様一日約三十分間のトレーニングで準備運動・ステップワーク・持久走・筋力トレーニング・瞬発力運動・整理運動よりなり立っている。軽い準備運動で身体をほぐし、下肢と上肢の協調的なリズミカルな動きで30m程度の距離を往復しながらおもに下腿部とくに足首の柔軟性とキック力を養い俗にいう足さばきを修得しようとする。ついで三〇〇〇mの各自設定コースを目標時間約十分間で走り全身持久力を高めようとする。つぎの筋力トレーニングはダンベルを利用しての上肢・肩胸・体幹部・下肢の筋力強化をねらいとするさらに反復ダッシュで瞬発力の強化をねらい、整理運動でおさめるという内容である。



第1図 （女子のボールスピードとボール投げの関係

第六回の測定は昭和五四年三月～四月にかけて日本ビクター（茨城県）において行った。ここでは女子ナショナル選手・ジュニアーナショナル・日立栃木・日本ビクターの選手さらに周辺地区の中学・高校生計一三五名を対象としたここでは各年令別に測定値をまとめた結果を第二表(22頁)に示す

スピードガンを用いたボールスピードとボール遠投能力の相関を調べた結果を第図に示すが過去に知られていたと同様に非常に高い相関係数が求められた。また同時にサイベックスマシンで測定した膝・足・肘・手の筋力と背筋力・

握力の総和を総合筋力としこれと遠投能力との相関を135名の女子選手についてしらべたものが第二図（23頁）。ここでも高い相関がみられた。個々の筋力と遠投能力の相関では多くを望めなかったものが総合筋力と仮称して身体各部の筋力の総和でみると高い相関がみられたことはハンドボール投げは全身的な筋の協調作用によるところが非常に大きいことが再確認され全身的な筋力強化を一層必要とすることが強調されねばならない。

我々がハンドボール競技の基礎運動能力テストの中にとり入れた三往復のダッシュとバーピーテスト・三角フットワークの組み合わせである短期スタミナテストについて検討を加えた。この測定による12分間走との相関を56名についてしらべた結果は、すでに本誌183号17頁に紹介されている。実戦の場における混戦的な速攻の応酬時に値する短期スタミナテストでの能力は本質的な全身持久力能力と相関をもっている。またさらに短い時間にお

【第１表】男子第２回ナショナル・ヤングの運動能力テストの結果　（昭和53年12月）

	短期スタミナテスト（秒）	投力テスト		ジャンプ力（cm）						
		時間(秒)	コントロール（x/s）	全身協応力（秒）	ベストスコア	50m走（秒）	12分間走（m）	身長(cm)	体重(kg)	年令
ナショナル選手	92.0	4.0	5	25.9	400.0	6.6	3406	180.0	78	26才
	94.0	4.4	4	29.3	340.0	6.7	3125	192	88	24
	102.0	4.4	3	30.1	340.0	6.9	3120	183	82	24
	114.0	4.6	3	38.1	350.0	6.8	2914	184	84	22
	113.0	4.5	3	27.9	350.0	6.9	3089	173.5	81	24
	104.0	4.6	5	36.6				175	73	24
	98.0	4.3	2	29.3	330.0	6.9	3130	179.2	74	26
	100.0	4.2	2	25.4	390.0	6.6	2994	176	70	24
	102	4.3	0	29.4	310.0	6.9	2878	185.0	78	21
	95.0	4.0	3	29.1	365.0	6.9	2904	187.0	88	24
	99.0	4.4	4	28.3	350.0	6.6	3160	185.0	74	22
平均→	101.2	4.3	3.1	29.9	352.5	6.8	3072	181.8	79.1	23.7
SD→	6.7665	0.1967	1.3787	3.7727	25,4214	0.1327	149,9913	5.3649	5.7911	1.4827
ヤングナショナル選手	113.0	4.4	5/5	41.4	300.0	6.6	3190	176	72.5	22
	102.0	4.2	4	34.3	310.0	6.8	3316	176	72.0	22
	114.0	4.6	3	38.1	350.0	6.9	2914			22
	112.0	4.7	4	30.2	350.0	6.6	3416	179.0		22
	130.0	4.9	5	33.6	309.0	7.0	3180	182.0	74	23
	102.0			30.3	350.0	7.0	3180	180	76	23
	103.0	4.5	1	43.8	310.0	6.8	3230	176	74	24
	112.0	4.7	4	30.7	320.0	6.5	3240			24
	108.8	4.2	2	38.3	360.0	6.9	3160	185		19
	115.0	4.6	2	44.6	330.0	7.0	3290	186	77	19
	100.0	4.5	4	29.9	330.0	6.6	3155	180	70	19
	103.0	4.4	3	49.8	340.0	1.1	3079	180	80	20
	99.0	4.6	2	31.0	360.0	6.6	3170	186		20
	97.0	4.5	4	37.6	320.0	6.6	3326	182	72	21
	103.0	4.2	5	32.2	340.0	6.7	3336	174	70	21
	102.0	4.3	3	26.3	380.0	6.7	3306	183.0		21
	101.0	4.8	3	36.4	340.0	6.9	3406	185.0		21
平均→	105.2	4.5	3.4	35.8	335.2	6.8	3229.1	180.7	73.8	21.4
SD→	5.6102	0.1810	1.1659	6.1343	21.2479	0.1789	120.3580	3.8064	3.0104	1.5696

【第2表】年令別による女子ハンドボール選手の体力測定の結果　　　（昭和54年3～4月）

項目 / 年令 N	ハンドボール投 (m)	50m走(秒)	12分間走 (m)	握力（右）(kg)	背筋力(kg)	垂直とび (cm)	総合筋力(kg)
12 (21)	19.2±4.17	8.5±0.57	2276±327.03	26.2±5.15	76.8±14.75	43.6±4.04	156.9±19.81
13 (13)	23.7±3.91	7.9±0.33	2366±165.23	31.2±4.29	96.4±18.55	43.4±3.31	216.5±31.75
14 (16)	25.9±2.06	7.8±0.39	2462±235.66	31.8±3.89	93.9±11.34	45.5±5.68	207.8±22.21
15 (15)	21.1±1.25	8.2±0.31	2487±122.74	31.9±1.95	102.3±15.14	48.9±6.12	219.0±23.73
16 (20)	25.7±2.75	8.2±1.41	2478±148.03	34.3±4.55	106.6±14.61	45.0±6.17	222.8±24.21
17 (19)	27.4±2.12	8.1±0.38	2576±190.68	32.3±55·5	119.5±23.92	46.5±6.11	246.6±56.42
18 (8)	30.9±2.27	7.9±0.25	2689±189.05	35.8±3.93	96.3±19.86	47.2±3.44	230.4±20.77
19 (12)	32.4±2.41	7.7±0.33	2780± 92.73	35.7±5.63	109.2±17.00	48.7±4.38	254.0±29.24
20 (12)	31.5±0.90	7.6±0.24	2804±117.40	33.3±3.16	111.7±11.00	49.4±2.91	262.4±33.03
21 (9)	32.1±2.83	7.6±0.16	2905±125.38	37.1±5.53	121.8±13.40	50.1±4.28	270.1±17.19
22 (6)	31.4±2.37	7.7±0.33	2722±227.79	32.3±3.40	111.7±20.48	45.2±6.11	253.3±29.08
23・24 (9)	33.1±2.11	7.4±0.23	2815±146.66	37.3±4.50	118.7±19.28	49.0±4.27	264.9±30.90

【第3表】　女子ナショナルチーム合宿時のボールスピード値（3回の平均値・昭和54年6月）

選手名	第1日目 (6/7)		第9日目(6/8)		第3日目(6/9)		第4日目(6/10)		第5日目(6/11)		第6日目(6/12)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	休養日	午前	午後	午前	午後
	km/h	km/h	km/h	km/h	km/h	km/h	km/h		km/h	km/h	km/h	km/h
加藤（日ビ）	73.3	73.3	74.7	74.3	75.7	74.3	72.3		76.7	75.7	76.7	74.3
松下（ジャ）	74.3	72.3	75.0	77.7	76.0	79.3	77.7		75.3	76.0	76.3	76.0
山本（ブエ）	70.0	78.0	72.3	73.0	70.3	76.3	72.7		72.0	73.0	73.0	75.7
金田（ジャ）	69.3	72.7	71.7	69.0	70.0	67.7	67.3		69.0	66.3	69.0	70.7
河田（ジャ）	75.0	69.3	75.3	75.7	74.0	75.3	77.0		74.3	73.7	76.3	72.7
穂積（日ビ）	75.0	74.3	74.0	73.3	72.7	74.3	76.0		73.0	68.7	74.3	73.7
中川（ブエ）	70.3	68.7	64.7	66.7	63.3	69.3	65.0		67.0	68.0	70.0	70.3
小島（日ビ）	72.3	69.3	71.7	69.7	69.7	71.7	73.0		69.0	72.7	68.7	71.3
宮平（ブエ）	71.0	72.7	70.3	70.3	69.7	71.3	71.0		69.3	72.7	71.0	72.3
吉田（日立）	68.7	66.3	66.3	67.3	67.7	66.7	69.3		68.3	68.0	68.0	66.3
清水（ムネ）	75.0	73.7	70.7	73.3	71.7	75.0	74.0		73.0	74.0	70.0	73.3
橋ノ口（立石）	68.0	68.7	64.7	65.0	67.7	63.7	64.7		65.3	65.3	65.0	66.3
島田（日立）	77.3	76.3	74.7	73.7	76.0	78.7	74.3		74.0	75.0	75.0	76.3
西（大崎）	78.0	77.0	78.0	76.3	78.3	82.3	79.3		79.0	79.0	79.0	79.7
千歩（北国）	73.0	74.0	72.7	72.7	72.0	72.3			69.6	71.7	70.3	70.3
若田（ジャ）	67.3	73.3	70.0	73.0	71.0	73.0	72.0		72.0	71.3	72.0	71.3
桑原（立石）	69.0	72.0	72.0	68.3	70.7	70.3	74.7		71.3	72.0	69.7	70.3
伊藤（日ビ）	73.7	72.3	69.7	70.7	72.3	72.3	68.3		69.0	69.7	70.7	68.3
水上（日立）	72.0	75.3	75.3	73.3	73.0	74.7	77.0		74.7	74.0	74.7	75.0
井村（立石）	73.0	70.3	72.7	71.7	72.2	72.7	71.7		72.0	68.0	68.7	70.7
矢部（ジャ）	70.3	70.0	73.3	71.7	71.7	73.7	73.7		75.7	74.3	74.7	74.7
x̄	72.2	72.1	71.9	71.7	71.7	73.1	72.6		71.9	71.9	72.1	72.4
S・D	2.9148	2.6499	3.4361	3.1697	3.2531	4.1769	3.9603		3.3670	3.4336	3.4557	3.2604

けるパワーとの相関もみられると考えてはいるがこの点は未だ整理はされていない。

第7回の測定は昭和五四年六月石川県における女子ナショナルの合宿時において行なったボールスピードの測定を中心にしらべた。6日間の合宿期間中に毎日午前と午後に各三回づつの試投をしその平均値を示したものが上掲の第三表である。短期間に投能力の向上が求められるものではないが、ここでは測定することが投力に関する関心を高める賦活剤的役割をしたことが注目された。

第8回測定は昭和五四年七月名古屋ブラザー工業において女子ヤングナショナルを対象に行った。その成績は第4表(23頁)の通り。

なお、第9回測定は昭和五四年九月福島自衛隊で行なわれた全日本実業団ジュニアチームの合宿時に行った。

昭和五四年十一月(台湾)十二月(名古屋・東京)でのアジア予選の結果、女子は惜敗に涙をのんだが男子はモスクワ行きの切符を手にした。選手は外国遠征と

予選に勝利をうるためとに肉体的精神的に消耗しきっているため少なくとも一カ月間は強化合宿を行うことは出来ず各チームでまた個人的にトレーニングを行うことになった。

我々はこの期間中に体力をおとさずリズムのある動きをおぼえるためのトレーニング処方PARTⅢを提出した。

その骨子は上肢とくに肩関節の可動範囲の拡大、下肢の柔軟な動き、軀幹部の捻転的な動きを中心としたリズム体操的なものと、持久走ランニング（三〇〇〇m）、さらにPARTⅠ－Ⅱに提出したステップワークであった。

この処方を継続的に行っておれば強化合宿に入ってもすぐにボールの動きに対応できる身体づくりが出来ており、実戦に入りうるものと考えた。

↓【第2図】女子におけるハンドボール投げと総合筋力の関係

なお、左に掲げた「女子ヤングナショナルの体力測定結果」の参考データとして、全日本の値を記しておくと次のようになる。

短期スタミナ(秒)、x̄122・9、SD6・1413、tマイナス7・1419

投力(秒)、x̄4・9、SD0・2726マイナス0・4097

協応力(秒)、x̄31・1 SD2・9556 tマイナス2・3147

ジャンプ力(cm)、x̄3・12 SD13・7598 tマイナス0・045

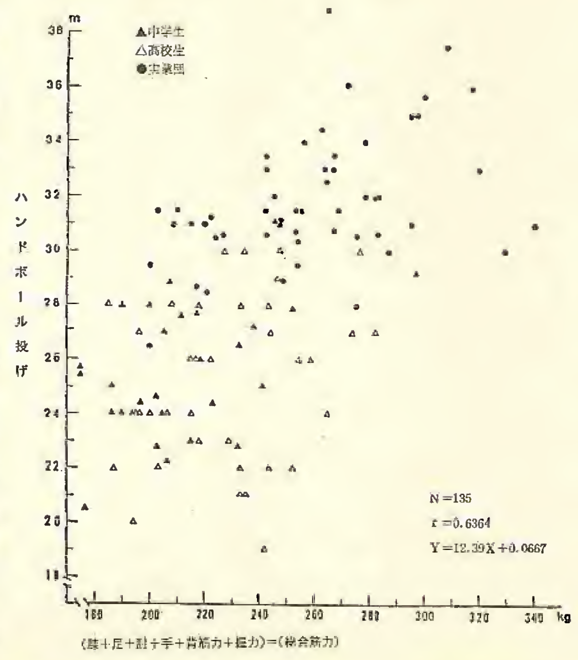
50m赤(秒) x̄7・7、SD0・1966、tマイナス2・8153

なお、ヤングナショナルの測定時、ボールスピード（km／h）も調査してあるが、最高は73・0、最低は58・0、平均は66・7であった。全日本女子の平均は72・2である。

（昭和53〜54年度の項おわり）

	短期スタミナ（秒）	投力（秒）	協応力（秒）	ジャンプ力（cm）	50m走（秒）
井村	108	4.71	27.22	3.15	7.20
矢部	104	4.17	26.70	3.12	7.18
藤井	111	5.25	33.39	2.70	7.75
藤野	114	5.72	32.24	2.87	7.92
寺西	114	4.62	30.52	2.97	7.50
大崎	111	5.02	30.39	2.68	7.38
千原	113	4.79	30.44	2.77	7.36
大高	106	4.71	28.50	2.63	7.85
薮田	101	4.69	25.70	3.01	7.24
辻本	109	4.74	26.01	2.91	7.77
水上	97	4.41	26.59	3.11	7.20
則武	96	4.55	25.57	2.95	7.15
寺村	116	4.88	28.59	3.00	7.45
岩城	116	5.50	26.99	3.19	7.28
伊藤	117	5.08	28.13	3.30	7.52
山本	107	4.58	25.58	3.18	7.05
姫野	103	4.82	27.14	2.96	7.55
川村	103	4.94	29.61	2.77	7.84
山村	111	4.95	24.53	2.79	7.26
植田	109	4570	27.65	2.86	7.57
杏原	125	5.06	36.18	2.85	7.84
竹内	108	4.59	34.16	2.87	7.81
石井（美）	106	4.61	31.51	3.12	7.46
石井（幸）	103	4.95	31.30	2.81	7.78
坂本	109	5.56	27.57	3.08	7.55
藤木	104	4.89	29.75	3.42	7.51
N：26 x̄	*** 108.5	4.86	** 28.9	2.96	** 7.50
S.D	6.3503	0.3450	2.8889	0.1937	0.2534

↑【第4表】昭和54年7月に行った女子ヤングナショナルの体力測定結果



55年度の方針まとまる

日本協会強化部トレーニングドクター群は、55年度の運営方針を次のように決めている。

一、全日本男女の運動能力および形態面の分析、一、全日本と外国チームの比較、一、今後の基礎体力向上計画、一、選手獲得の方針と体制（頂点強化長期計画）

全国理事会（5月11日）

法人設立時の理事（一部）決める

日本協会は5月11日東京渋谷の岸記念体育会館で全国理事会（現行規約）を開いた。

日本協会の全国理事会は、本誌184号既報のとおり、2月の会議をもって財団法人・日本協会へ受けつがれる予定だったが、法人化がやや遅れる見通しとなったこと、さらに、モスクワ・オリンピック参加問題が新局面を迎えつつあるために、急きょ、〝再招集〟がかけられたものである。

会議は、当然、この2議題が中心となり、モスクワ問題については本誌3頁所報のとおりの申し合せとなった。

近々設立許可申請をする財団法人日本ハンドボール協会の設立については、当初の理事の構成については、最終的には文部省との協議に待たねばならないので、去る3月31日の財団設立発起人会では会長に一任するという決定になっていた。

新しい財団と言っても、地方協会が理事を構成して運営していくという実体は現在の日本協会と変らないので、この日の理事会で意向をきくことになった。

地方ブロック推せんの理事の枠は維持し、現行の加盟団体は大きく社会人と学生生徒の二グループに分け、各グループから一名ずつの理事を推せんするという常務理事会（現行）の原案が承認可決され、社会人は実連推せんの山田稔氏、学生は学連と高体連の一期交代制で設立当初は高体連の清水正氏が推せんされた。

このほかに、従来の会長推せん理事にあたる学識経験者を、会長を含めて九～十名を設立当初の理事（昭和五六年三月末日までの任期）として申請する。

本来、財団法人の理事は、評議員会の意見をきいて財団の基本事項を決定し執行する職責を有するので、社会時にもある程度の地位（責任を負える能力）を有することが要請される。執行責任も執行に対する責任を負うということであって、自ら一切の事務をとるということではない。

しかし、日体協のような事務組織と十分な事務職員を置いている財団法人とは異なり、日本ハンドボール協会の実情では、理事がある程度の事務作業（雑用を含めて）を自ら分担しなければならない。言いたいことを言っているだけでは、協会は動かないのである。執行体制の弱体はそこに原因する。

財団法人にふさわしい数の事務職員をそろえることは今後も難しいとなれば、財団の理事も、ある程度事務作業を分担しなければならず、それができる余裕のある人に理事になって貰う必要があろう。とくにブロック推せんの理事には財団の執行機関の一員として、普及および強化事業のブロックの中核の役割を果たして貰うことになる。なお、この日の席上、世界学生選手権に送る選手団の運営について議論されたが、日本協会の荒川理事長と学連の中沢理事長が協議して、ジュニアナショナルの強化の一環として有効に生かせるよう配慮することになった。

また、四月の東独遠征について日体協の補助金の内示があったので、これと中国遠征に関する支出予算について理事会の事後承認を得た。

（大野金一＝総務担当常務理事）

財団法人設立時の理事（決定分）

藤田　八郎（九　州）
平田　幸男（中　国）
入江　暢一（関　東）
石切山稔治（北海道）
伊藤　和夫（東　海）
森　　恭一（東　北）
中井　泰彦（近　畿）
越智　　武（四　国）
清水　　正（高体連）
若山　　博（北信越）
山田　　稔（実　連）

～ABC順～

（注）残る9～10名の学識経験者による理事は文部省の認可後，理事数が確定され次第，発表される

強化部　新人事を発表　コーチを増員

日本協会強化部は、3月以降、コーチングスタッフを中心とする人事の手なおしを進めていたが、理事長を兼ねる荒川強化部長は、5月11日の全国理事会（東京）と17日の強化部強化委員会（名古屋）で新構想を明きらかにし、承認を得た。

それによると、注目のコーチングスタッフは、男子が監督の竹野奉昭氏を含め11人、女子が監督の池田鉄哉氏を含め9人で、このうち、男子の竹野監督、木野実コーチ、女子の池田監督、井薫コーチ（交渉中）が日本体協コーチに指名された。

また、トレーニングドクターは阿部徳之助氏が、前期に引きつづき日本体協トレーニングドクターとなり、渡辺慶寿前部長辞任後、空席の総務担当コーチには藤原侑強化委員兼コーチが推せんされた

このほか、強化部総務担当として杉山茂・元日本協会理事の起用が決まり、総務担当コーチ補佐群に加わった。

女子コーチに交渉されている井氏（立石電機監督、元全日本女子監督）は、分担内容の明確を希望しており、本誌〆切り（5月25日）までに、承諾の正式回答を寄せていない。辞表提出の白神邦雄コーチ（女子）については、7月上旬の強化部総会で話し合われる予定

なお、男女コーチングスタッフは、早ければ7月中に、それぞれの「55年度ナショナルチーム」を発表する意向である。「ジュニアナショナル」については未定。

○…強化部新スタッフ…○

▽強化部長　荒川清美▽強化委員　山田稔、柳井文治、古庄昌雄、富永砌、藤原侑、北岡大覚、幸田末之、横地宇吉、村田弘、竹野奉昭、池田鉄哉、阿部徳之助、

▽強化コーチ群（男子）竹野奉昭（全日本男子監督）、東嘉伸、本田洋、木野実（全日本男子ジュニア監督）、近森克彦、○平岡秀雄、野田清、○北岡大覚、市原則之、○宍倉保雄、早川清孝（在西独）

（女子）池田鉄哉（全日本女子監督）、伊藤宏幸、○緒方嗣雄、谷口俊郎、○井薫（交渉中）、高野亮○藤原侑、白神邦雄、樫塚正一

▽トレーニングドクター　阿部徳之助▽トレーニングドクター群　新井節男、豊島進太郎、北川勇喜

▽総務担当コーチ　○藤原侑▽総務担当コーチ補佐群、山口毅、坂理泰介、○杉山茂、天野正美、高田日呂美。

○印は新任または復帰を示す。

◇各地学生春季リーグ戦①

中央、栄光の座へ復活

日体の5連勝阻止

関　東（男子1・2部）

関東学生春季リーグ男子1、2部は、4月25日から5月17日まで東京・駒沢屋内球技場と同体育館で、各8校が参加して行われた。

1部は、各校とも主力選手が卒業して、その穴が埋まり切らぬうちのシーズン・インとあって、混戦が予想された。

はたして、開幕日、昨秋テールエンドの中央が、5連勝を狙う日体を押しまくって快勝する波乱をおこした。

その中央も、第2戦で早稲田に力負けし、第3戦を終ったところでは早稲田、筑波が3連勝してトップに並んだ。

ところが、第4戦で早稲田は法政の善戦にあい、タイムアップ寸前のPTで辛くも引き分け、筑波は中央に後半20分18—24と開かれる拙戦で、全勝校がなくなった。

後半戦に入って、日体が筑波戦をとり浮上、筑波は優勝圏外に去り、早稲田、中央は順調に勝ち点を積んで、最終日を前に早稲田1分、中央、日体各1敗で優勝を争うこととなった。

まず、中央が猪野(全日本)、尾上が二人で18点を叩き出す活躍を示し順天堂に大勝、6勝1敗、得失点差44で終了。最終戦・早稲田×日体を待った。

この試合で早稲田が勝てば、6シーズンぶりの優勝、日体が勝てば中央と同率、得失点差の勝負となるが、日体は前日までにプラス10を数えるだけ、中央をしのぐには35点差の勝利が条件という絶望的な数字だった。

早稲田は、前半13分6—5とリードを奪ったが、15分すぎあたりから、シュートが強引になり、この試合直前、学生界から唯一人、オリンピック選手に選ばれることが決まった日体GK・井藤に軽々と捌かれ、12分間ノーゴールという拙い攻めをみせてしまった。

この間に、日体は一気に主導権を奪ったが、早稲田も後半、立ち直り、10分15—15と追いつく、好試合になった。

ところが、再び、早稲田が射ち急ぎはじめ6分間追加点がなく、日体は井藤の堅守と金丸の速攻、平野の巧技などでポイント、17分20—15と差をつけた。

終盤、早稲田は奮起して29分ついに21—22、スタンドを騒然とさせたが、日体は29分38秒平野がダメ押し点をあげ、この1点で、中央の優勝が確定した。

中央の優勝は7シーズンぶり9度目、前季最下位のチームが、次のシーズンに優勝したのは史上初。

優勝一歩手前まで進んだ早稲田は結局3位、Bクラスでは、日大が1勝に終わる不振で7位に転落、1部初勝利を目指した順天堂は、健闘むなしく7敗で終った。

得点王は52ゴールをあげた矢島富士雄(筑波大、全日本選手)。ベストセブンはGK井藤(日体)、池田(日体)、吉井、村崎（ともに早稲田)、尾上、松原(ともに中大)、矢島(筑波)。

なお、2部は、東海と慶応が突走り、両者の対戦は東海が残り5分14—14から3点連取でリード。慶応の反撃をおさえ2連勝3度目の優勝を遂げた。得点王は49ゴールの藤本明久(明星)。

▽男子1部

法政 20（12—7、6—10）17 日大

早稲田 26（13—11、13—6）17 順天堂

関東学生男子（1部）

	中	体	早	筑	法	国	日	順	P	得	失
①中央	…	○	●	○	○	○	○	○	12	186	142
②日体	●	…	○	○	○	○	○	○	12	137	125
③早稲田	○	●	…	○	△	○	○	○	11		
④筑波	●	●	●	…	○	○	○	○	6		
⑤法政	●	●	△	●	…	○	○	○	7		
⑥国士館	●	●	●	●	●	…	○	○	4		
⑦日大	●	●	●	●	●	●	…	○	2		
⑧順天堂	●	●	●	●	●	●	●	…	0		

【2部順位】①東海7戦全勝②慶応6勝1敗③明星4勝1分2敗④茨城4勝3敗⑤明治3勝1分3敗⑥立教2勝5敗⑦駒沢1勝6敗⑧横浜商大7敗

中央 25（13—9、12—6）15 日体

【日体】	得
GK 井藤	0
阿部	0
FP 成瀬	0
池田	6
酒井	1
平野	2
岡田	0
村井	0
宮城	2
小倉	4
寺山	0
金丸	0
PT	(0) 15

【中央】	得
GK 鷲巣	1
田中	0
FP 松原	3
田口	4
猪野	7
藤井	1
尾上	5
鈴木	0
塚田	4
兼行	0
庄司	0
中川	0
PT	25 (2)

（審・岡本、得丸）

筑波 23（10—7、13—7）14 国士館

国士館 19（9—7、10—5）12 日大

早稲田 27（17—10、10—13）23 中央

日体 16（9—6、7—7）13 順天堂

筑波 17（7—10、10—2）12 法政

日体 19（11—7、8—9）16 法政

早稲田 21（8—9、13—8）17 国士館

筑波 23（12－6 11－6）14 順天堂
中央 26（13－10 13－9）19 日大
日大 26（16－9 10－12）21 順天堂
日体 24（10－6 14－8）14 国士館
中央 27（12－9 15－13）22 筑波
早稲田 21（12－12 9－9）21 法政
引き分け
早稲田 18（9－11 9－5）16 日大
日体 21（12－11 9－9）20 筑波
中央 24（11－10 13－9）19 国士館
法政 25（11－11 14－12）23 順天堂
中央 28（22－10 27－14）24 法政
早稲田 22（12－8 10－10）18 筑波
国士館 28（15－12 13－6）18 順天堂
日体 19（9－7 10－9）16 日大
法政 24（12－9 12－11）20 国士館
中央 33（18－4 15－12）16 順天堂
筑波 23（10－11 13－10）21 日大
日体 23（11－12 12－9）21 早稲田

東海、慶応下し2連勝

▽同2部
東海 27－16 茨城大
慶応 19－11 立教
明治 29－18 駒沢
明星 21－15 横浜商大
東海 15－7 立教
茨城大 13－11 明治
東海 26－19 駒沢
明治 23－14 横浜商大
慶応 22－18 茨城大
明星 22－16 立教
慶応 32－4 横浜商大
東海 22－14 明星
茨城大 25－16 横浜商大
明星 19－15 駒沢
明治 28－13 立教
慶応 20－18 駒沢
東海 30－16 横浜商大
明星 17－13 茨城大
茨城大 17－16 立教
慶応 26－13 明治
立教 18－15 駒沢
東海 30－15 明治
駒沢 29－30 横浜商大
慶応 28－13 明星
茨城大 19－14 駒沢
立教 20－15 横浜商大
明治 18（分）18 明星
東海 17－16 慶応

＜注＞3部〜6部の記録は次号。

日体、激戦をぬけ出す

関東（女子1部）

男子に優る大激戦だった。2季連続3位の日女体大に代って筑波が復活、日体、東女体との三つ巴で終盤を迎えた。

最初のカード・筑波×日体は、第1戦、筑波が後半はじめ12－13から4点連取して波にのり、勝負をつけた。

第2戦は逆に筑波が後半10分7－6と先行していたが、日体はこのあと2本のPTで逆転、さらに後藤の活躍で20分11－8、1勝1敗とした。

第2カード・東女体×筑波は東女体が前半なかばすぎから主導権を握り完勝、ストレート勝ちを予想させたが、第2戦は、まったく攻守の好不調が逆転、筑波の雪じょくが成った。

最終週を前に、日体、東女体が7勝1敗、筑波が6勝2敗。

筑波は茨城大に順当勝ちして8勝2敗で全日程を終了、東女体×日体の第1戦は、日体が前半15分5－3とリードしたが、そのあと東女体攻撃陣が鋭いプレーで一気に逆転、後半15分13－11と優位に立った。

日体は粘り、石井の連取で20分13－13に追いついたが、東女体は残り25秒増子が貴重な決勝点、先勝した。

この結果、第2戦で東女体が勝てば文句なく優勝。日体が勝てば三校同率（8勝2敗）となるものの得失点差で日体優勝というスリリングな展開となった。

互いに動きにぎこちなさがのぞき、17分4－1と日体が先手をとったが、この5点はすべてPT。後半ようやく、攻守にリズムが出て、特に東女体は藤本の好プレーで12分6－7まで追いあげた。

しかし、その直後の好機をシュートミスで逸し、一方、日体は14分のPTで8－6と一息、さらに原田、石井、後藤とたたみかけ18分11－6とした。

ところが、そのあと追加点がなく、東女体の反撃に会い、3本のPTを課せられるなどで24分11－10ともつれたが、残り30秒後藤のゴールで、優勝が決まった。2シーズン連続35回目。2位には3シーズンぶりで筑波がついた。また東京学芸大は10シーズンぶりの4位。茨城大はついに40連敗である。

最多得点選手は69ゴールをマークした藤本陽子(東女体大)。

ベストセブンはGK高倉、FP鈴木紀、石井、後藤(以上日体)、藤本、浜村(以上東女体)、藤岡(日女体)。

なお、2部は、本誌〆切り(5月25日)までに全日程が終了していず、3連勝を狙う都留文化大と千葉明徳短大が3戦全勝で、トップに並んでいる。

▽女子1部
日体 29（17－2 12－2）4 茨城大
日体 31（13－4 18－3）7 茨城大
東女体大 23（13－2 10－1）3 東京学大
東女体大 18（9－1 9－1）2 東京学大
筑波 21（12－4 9－3）7 日女体大
筑波 14（7－5 7－2）7 日女体大
日体 22（11－0 11－5）5 東京学大
日体 20（10－2 10－2）4 東京学大
東女体大 30（13－6 17－1）7 茨城大
東女体大 28（15－3 13－1）4 茨城大
筑波 20（9－3 11－12）15 日体
日体 11（8－6 3－4）10 筑波
東女大大 15（7－6 8－4）10 日女体大
東女体大 13（7－5 6－3）8 日女体大
日女体大 23（13－2 10－9）4 茨城大
日女体大 21（12－3 9－3）6 茨城大
筑波 21（10－4 11－3）7 東京学大
筑波 15（8－2 7－2）4 東京学大
日体 19（9－6 10－3）9 日女体大
日体 27（12－2 15－5）7 日女体大

東女体大 17（6－6、11－7）13 筑波
筑波 17（8－6、9－2）8 東女体大
東京学大 16（10－7、6－8）15 茨城大
東京学大 11（3－3、8－4）7 茨城大
筑波 33（16－5、17－3）8 茨城大
東京学大 13（7－3、6－9）12 日女体大
東京学大 9（3－3、6－2）5 日女体大
筑波 24（13－4、11－3）7 茨城
東女体大 14（4－5、10－8）13 日体
日体 12（7－8、5－2）10 東女体大

【順位】①日体8勝2敗（得失点差111）②筑波8勝2敗（97）③東女体大8勝2敗（87）④東京学芸大4勝6敗⑤日女体大2勝8敗⑥茨城大10敗。

東海女子は愛知教大

東海（女子）

東海学生女子春季リーグ戦は、4月27日から5月24日まで愛知県体育館などに7校が参加して行なわれた。

今季も中京女、中京の争いかとみられたが、中京が部員の交通事故死から白じゅくを打ち出し、今春の全日程を棄権したため、中京女が6連勝を目指して独走するものと思えた。

ところが、第5戦で愛知教大の健闘にあって大苦戦、後半2分3－4から、愛知教大の平松、杉浦（PT）、村松に連続ゴールを決められ、その後の反撃も及ばず、大きな星を落とした。

大敵を降した愛知教大は、残る南山戦を手固くモノにして5戦全勝、45年秋に加盟以来、宿願の初優勝を飾った。

なお、男子は本誌〆切までに全日程を終えていないが、名城の2シーズンぶり9度目の優勝が確定的、2部は中部工大、3部は愛知豊橋の優勝が決まった。男子も中京は全試合を棄権。（男子の記録は次号に掲載します）

▽女子
愛知教大 8（3－1、5－1）2 三重大
中京女大 29（17－0、12－0）0 日本福祉大
中京女大 16（8－1、8－3）4 南山
愛知教大 19（4－5、15－1）6 日本福祉大
中京女大 14（7－0、7－0）0 愛知学院

◇各地学生春季リーグ戦

愛知教大 20（11－3、9－1）4 愛知学院
中京女大 20（11－2、9－3）5 三重大
南山 10（7－2、3－0）2 日本福祉大
愛知教大 7（4－4、3－2）6 中京女大
三重大 8（5－3、3－3）6 南山
三重大 17（8－2、9－2）4 日本福祉大
愛知学院 8（3－4、5－3）7 南山
愛知学院 20（8－3、12－5）8 日本福祉大
愛知教大 13（7－2、6－2）4 南山
愛知学院 8（5－3、3－5）8 三重大
引き分け

【順位】①愛知教大5戦全勝②中京女大4勝1敗③三重大2勝1分2敗（得失点差マイナス6）④愛知学院2勝1分2敗（マイナス19）⑤南山1勝4敗⑥日本福祉大5敗
※中京棄権

中四国女子は山口大

中四国学生女子春季リーグ戦は5月3、4の両日山口大工学部体育館で3校によって行われ、山口大が7シーズン連続11度目の優勝となった。

山口大 16（8－5、8－9）14 岡山県立短大
山口大 18（9－2、9－1）3 岡山大
岡山県立短大 11（4－2、7－8）10 岡山大

【順位】①山口大②岡山県立短大③岡山大。

北海道学生・速報 北海道学生春季リーグ戦は、函館市民体育館で行われ、男子1部（6校）は、新進・函館大が全勝、初優勝を飾った。同2部（8校）は北海道工大、女子（3校）は旭川教大が勝った。（詳報次号）

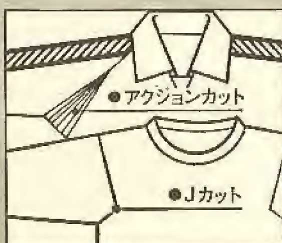
関西学生・速報 関西学生春季リーグ戦は5月25日男女各1部の日程を終わり、男子（7校）は、大阪体大が最終日、全勝同士の大阪経大戦を29－14でとり5シーズン連続優勝。

女子（7校）は、今季も武庫川女大が圧倒的に強く6戦全勝で、10シーズン連続優勝を飾った。（詳報次号）

日大2部転落 （速報）関東学生春季リーグ男子1・2部入れ替え戦は5月27日東京・駒沢で行われ、順天堂（1部⑧）は東海（2部①）を23－20で破り残留を決めたが、日大（1部⑦）は慶応（2部②）に21－14で敗れ、2部落ちとなった。

勝ちぬく速攻メカ。

「ザ・スタジアム」ハンドボールウェア。腕の動きをケタ違いに高める「アクションカット」「Jカット」により、速攻機能をグレードアップ。まさにハンドボールのための、身につける武器だ。ボールをゴールにたたきこむ、とっておきのメカだ。世界選手権をはじめ、ヒノキ舞台で活躍するデサントのノウハウが、いま、コートで吠える。——



STUDIUMはデサントの登録商標です。

THE STADIUM®

DESCENTE

《本格派》デサント・ハンドボールウェア「ザ・スタジアム」



がんばれ!ニッポン!
協賛(JOC-G承認109)



1980 MOSCOW デサントはアディダス社と共にモスクワ五輪に協力しています。
JOC-MS-2-80-1

株式会社デサント

岩国工、徳山（女）ともに8度目

中国高校選手権

第31回中国高校選手権は、例年どおりブロック高校選手権のトップを切って、5月11、12日の両日山口・岩国工高球技場に、中国5県から男女各16校が参加、トーナメントで行われた。

男子は、春の全国高校選抜大会で地元優勝を飾った岩国工（山口）が、危気ない試合ぶりで快勝、ホームコートの声援に応えた。岩国工の優勝は2年ぶり8度目。

女子は、実力伯仲という前評判だったが、山口勢が強味を示し、名門・徳山（山口）が、決勝で岩国商（山口）を大接戦の末に退け、3年連続8度目の優勝を遂げた。

男女とも、今年も山口勢の強さが目立ったが、その中で、女子の比治山女（広島）が、徳山に2—4と食い下り、注目された。

▽男子1回戦
下松工（山）27—8 倉吉東（鳥）
水島工（岡）26—10 飯　南（島）
下関中央工（山）32—12 呉　港（広）
境港工（鳥）17—16 松江南（島）
倉敷商（岡）20—6 境　（鳥）
修　道（広）20—19 下　松（山）
総　社（島）17—16 松江工（島）
岩国工（山）31—8 安　芸（広）

▽同準々決勝
下松工 23—7 水島工
下関中央工 27—14 境港工
修　道 26—11 倉敷商
岩国工 21—10 総　社

▽同準決勝
下松工 18（8—2 10—8）10 下関中央工
岩国工 20（8—3 12—9）12 修　道

▽同決勝
岩国工 17（10—7 7—5）12 下松工

▽女子1回戦
徳　山（山）4—2 比治山女（広）
西大寺（岡）20—5 浜田商（島）
倉敷天城（岡）12—1 倉吉産（鳥）
広島山陽女 9—3 徳山商（山）
児　島（岡）14—13 倉吉西（鳥）
防府商（山）15—4 松江一（島）
米子南商（鳥）16—8 呉　商（広）
岩国商（山）21—1 松江南（島）

▽同準々決勝
徳　山 18—1 西大寺
広島山陽女 12—2 倉敷天城
防府商 10—6 児　島
岩国商 28—2 米子南商

▽同準決勝
徳　山 7（3—0 4—3）3 広島山陽女
岩国商 7（4—4 3—1）5 防府商

▽同決勝
徳　山 6（3—2 3—3）5 岩国商

各地の記録

本田技、大同破り2連勝

第16回東海実業団選手権は、5月11、18日の両日四日市市で行われた。

11チームによる男子トーナメントは、本田技研鈴鹿（三重）、大同特殊鋼（愛知）が抜群のパワーを示し決勝へ進出、本田が、主力に負傷の多い大同を後半押しまくって2年連続2度目の優勝を飾った。

3チームによる女子リーグは、ジャスコ（三重）、ブラザー工業（愛知）が三洋電機（岐阜）に圧勝、両者の〝決勝〟は、ジャスコが立ちあがりから優勢となり3年連続4度目の栄冠。

▽男子1回戦（3試合）
日本碍子（愛知）22（11—12 11—5）17 三菱油化（三重）
豊田合成（愛知）31（15—6 16—5）11 日本耐酸壜（岐阜）
トヨタ自工（愛知）24（10—4 14—5）9 三洋電機（岐阜）

▽同準々決勝
本田技研鈴鹿（三重）28（20—4 8—5）9 豊田織機（愛知）
新日鉄名古屋（愛知）19（7—8 12—4）12 豊田合成
大同特殊鋼（愛知）42（23—2 19—3）5 日本碍子
金沢市役所（石川）17（9—9 8—5）14 トヨタ自工（愛知）

▽同準決勝
大同特殊鋼 39（21—6 18—6）12 新日鉄名古屋
本田技研鈴鹿 30（17—1 13—8）9 金沢市役所

▽同決勝
本田技研鈴鹿 14（7—7 7—4）11 大同特殊鋼

▽女子決勝リーグ
ジャスコ（三重）47（24—1 23—3）4 三洋電機（岐阜）
ブラザー工業（愛知）43（21—3 22—1）4 三洋電機
ジャスコ 18（6—2 12—8）10 ブラザー工業

【順位】①ジャスコ②ブラザー工業③三洋電機

花巻クが初の栄冠

第3回東北クラブ選手権は4月19、20日の両日岩手・花巻市民体育館に男子9、女子5チームが集まりトーナメントで行われた。

男子は、3連勝を狙う七戸ユニオン（青森）に、地元・花巻ク（岩手）が挑む初顔合せで決勝が争われたが、花巻は立ちあがりから積極的な攻撃でペースをつかみ、GK鎌田の好守もあって初優勝を飾った。

女子は、桐花ク×三英実会の岩手同士の決勝戦となり、前半は1点を争う好ゲームとなったが、後半になるとベテランの好リードでリズムをつかんだ桐花クが着実にポイント、2連勝を決めた。

▽男子1回戦（1試合）
花巻送球会（岩手）棄権 大農ク（秋田）

▽同準々決勝
仙台育英ク（宮城）32（16—11 16—12）23 白亜ク（岩手）
花巻ク（岩手）31（14—2 17—10）12 吉川工高OB（宮城）
東北学院大OB（宮城）20（12—7 8—12）19 盛岡商友会（岩手）
七戸ユニオン（青森）41（18—3 23—6）9 花巻送球会

▽同準決勝
花巻ク 26（13—12 13—9）21 仙台育英ク
七戸ユニオン 21（10—8 11—8）16 東北学院大OB

▽同決勝
花巻ク 19（9—7 10—7）14 七戸ユニオン

▽女子1回戦（1試合）
あすなろク（青森）9（4—3 5—0）3 塩釜ク（宮城）

▽同準決勝
岩手桐花ク（岩手）10（5—2 5—5）7 あすなろク
三英実会（岩手）12（5—4 7—6）10 古女ク（宮城）

▽同決勝
岩手桐花ク 13（3—2 10—4）6 三英実会

九州は全宮崎

第16回九州一般男子選手権は、5月10、11日熊本県山鹿市で行われ、全宮崎が熊本教員を32—18で破り初優勝を飾った。（詳報次号）

七戸ユニオン延長で勝つ

▼第7回青森県社会人春季大会（4月・七戸町）＝男子のみ

▽準々決勝

青森ク 25—15 海自二空群
十和田ク 18—16 尾上ク
大湊地方隊 26—19 野辺地ク
七戸ユニオン 24—12 弘前大

▽準決勝

青森ク 23—20 十和田ク
七戸ユニオン 26—8 大湊地方隊

▽3位決定戦

十和田ク 19—18 大湊地方隊

▽決勝

七戸ユニオン 25（13—12 8—9 … 2—0 9—1）22 青森ク

自衛隊勝田、敗れる

▼第16回茨城県一般春季選手権（4月・茨城大）

▽男子1回戦（3試合）

自衛隊勝田 26—16 鉾田ク
茨城大 31—9 ラバーズ
日本原研 32—23 土浦三高OB

▽同準決勝

笠間ク 22—15 自衛隊勝田
茨城大 27—14 日本原研

▽同決勝

笠間ク 26（13—9 13—5）14 茨城大

▽女子決勝

桜芳ク 9（3—4 6—3）7 茨城大

本田技研鈴鹿が楽勝

▼三重県一般春季大会（4月・亀山ほか）＝男子のみ

▽準々決勝

本田技研鈴鹿 40—3 鳥羽商船
尾鷲ク 30—8 中央ク
ガラクトーズ 36—5 半田ク
三重教員 31—12 鵜ノ森ク

▽準決勝

本田技研鈴鹿 39—9 尾鷲ク
三重教員 21—18 ガラクトーズ

▽決勝

本田技研鈴鹿 33（16—7 17—7）14 三重教員

高校は四日市工と暁

▼三重県春季高校大会（4月・津女子高ほか）

▽男子準々決勝

四日市工 25—9 四日市中央工
桑名工 13—9 四日市西
尾鷲 14—6 桑名
桑名西 13—11 海星

▽同準決勝

四日市工 17—5 桑名工
尾鷲 12—5 桑名西

▽同決勝

四日市工 12（5—2 7—2）4 尾鷲

▽女子準々決勝

暁 24—4 四日市
桑名 8—7 亀山
四日市商 14—4 上野
津女子 30—1 四日市西

▽同準決勝

暁 15—3 桑名
津女子 21—7 四日市商

▽同決勝

暁 11（4—2 7—9）4 津女子

福井教員、北電下す

▼福井県55年度前期選手権（4月福井市）

▽一般男子準々決勝

福井教員 35—7 福井大
光陽会 23—10 ハスラーズ
拝球会 30—11 レッドボンバース
北陸電力 19—4 スターズ

▽同準決勝

福井教員 23—14 光陽会
北陸電力 26—15 拝球会

▽同決勝

福井教員 20（11—8 9—10）18 北陸電力

▽女子準々決勝

全福井 13—5 高志高
武生商 13—6 北陸高
科学高 15—9 藤島高
仁愛女高 14—2 福井商

▽同準決勝

全福井 13—5 武生商
仁愛女高 29—9 科学高

▽同決勝

仁愛女高 16（8—3 8—3）6 全福井

小松勢が強さ示す

▼石川県高校春季大会（4月・石川県体育館）

▽男子決勝トーナメント1回戦

小松工 29—9 星稜
小松 17—10 向陽

▽同3位決定戦

星稜 19—11 向陽

▽同決勝

小松工 14（8—5 6—6）11 小松

▽女子決勝リーグ

短大付 7—5 金沢商
小松商 20—6 短大付
小松商 10—4 金沢商

【順位】①小松商②短大付③金沢商

（注）全国高校選抜大会優勝の小松市女は、この大会に出場しなかった。

女子は米子ク勝つ

▼第25回鳥取一般選手権（4月・倉吉産高）

▽男子準決勝

境港市ク 28—21 中部ク
倉吉ク 26—21 関金ク

▽同3位決定戦

中部ク 22（分）22 関金ク

▽同決勝

境港市ク 27（11—13 16—6）19 倉吉ク

▽女子決勝

米子ク 20（10—5 10—9）7 倉吉ク

▼東京都高校春季大会（4月）

▽男子決勝リーグ

中大附 26—19 佼成
駒大附 13—13 明星
明星 16—16 中大附
駒大附 30—8 佼佼
明星 24—5 成成
駒大附 33—14 中大附

【順位】①駒大附②明星③中大附④佼成

▽女子決勝リーグ

拓大一 7—2 日体桜華
藤村 10—9 桐朋女
拓大一 7—4 桐朋女
藤村 5—3 日体桜華
桐朋女 8—7 日体桜華
藤村 8—6 拓大一

【順位】①藤村②拓大一③桐朋女④日体桜華

中学大会記録

▼第9回三重県中学生大会（4月・四日市）

▽男子1回戦（3試合）

富洲原 不戦勝 南
白子 17—5 菰野
鼓が浦 16—12 西笹川

▽同準決勝

東員 31—9 富洲原
白子 20—6 鼓が浦

▽同決勝

東員 20—12 白子

▽女子準々決勝

菰野 18—1 鼓が浦B
拓植 61—11 明和
桔梗が丘 18—12 阿山
東員 15—1 鼓が浦

▽同準決勝

菰野 11—7 拓植
東員 17—9 桔梗が丘

▽同決勝

東員 13—10 菰野

まえへ9曲　うしろへ9曲

デジタル選曲

マイクロコンピューター搭載。どこまで進化するのかラジオカセット。

メタル&フェザータッチ



マイクロコンピューター
ステレオ パディスコ 8800

TRK-8800 ¥84,800

●高級デッキなみの操作感覚フェザータッチ ●2モーターシステムが可能にした高精度回転ワウ・フラッター0.06%(W.R.M.S) ●メタルテープの性能をフルに引き出すメタル対応ヘッド搭載 ●曲の頭出し思いのまま、繰り返し聞けるリピートデジタル選曲機構 ●テープを初めから終わりまで繰り返し自動演奏するオートリワインドプレイ機構

●2ウェイ・4スピーカーシステム(16cmウーハー×2+5cmツイーター×2) ●実用最大出力10W(5W+5W) EIAJ/DC ●大きさ 幅55.6×高さ31.8×奥行17.3(cm) ●重さ 8kg(乾電池含む)

★選曲のために、曲と曲との間に3秒間以上の無信号部分が必要です。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI RADIO CASSETTE RECORDER

HITACHI

上手に使って上手に節電

日立家電販売株式会社　〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

日立クレジット株式会社　〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

お求めは、お手軽なお支払い 日立のクレジット

★ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合、クレジットがご利用いただけます。
★商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。



くらしを豊かに…
「日立新技術シリーズ」

日立の新技術・新アイデアから生まれた代表商品です。このエレクトロニクスの基本技術は、日立カセットレコーダーに共通して生かされています。



日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一八六号
昭和四十年十月七日 昭和五五年 五月二十五日印刷
第三種郵便物認可 昭和五五年 六月 一 日発行
発行所
日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)